

【 医 学 部 】

第 4 学 年

<p><生命科学・社会医学系></p> <p>社会医学</p> <p>衛生学・予防医学……………4- 1</p> <p>公衆衛生学……………4- 5</p> <p>疫学……………4- 8</p> <p>衛生学・公衆衛生学・疫学実習……………4- 9</p> <p>法医学……………4-12</p> <p>基礎上級……………別途</p> <p><総合教育></p> <p>医療入門 I</p> <p>症候論とケーススタディ・高齢者総合診療 ……………4-14</p> <p>臨床実習入門……………4-15</p> <p>医療と社会……………4-16</p> <p>プライマリケアと地域医療……………4-18</p> <p>緊急被ばく……………4-19</p>	<p><臨床医学系></p> <p>消化器Ⅱ……………4-20</p> <p>腎・泌尿器Ⅱ……………4-22</p> <p>脳・神経Ⅱ……………4-24</p> <p>成長・発達Ⅱ……………4-27</p> <p>生殖・周産期……………4-30</p> <p>運動器・リハビリテーション……………4-33</p> <p>皮膚・形成……………4-35</p> <p>視 覚……………4-38</p> <p>頭頸部・口腔……………4-40</p> <p>精 神……………4-43</p> <p>放射線診断治療学……………4-48</p> <p>麻酔……………4-50</p> <p>救急・災害医療……………4-51</p> <p>感染制御……………4-53</p> <p>臨床薬理学……………4-54</p> <p>性差医療……………4-56</p> <p>漢方医学Ⅲ……………4-57</p> <p>腫瘍内科学……………4-58</p>
--	---

科目・コース(ユニット)名	社会医学(衛生学・予防医学)【医学4】						
(英語名称)	Social Medicine (Hygiene and Preventive Medicine)						
担当責任者	福島 哲仁						
開講年次	4年	開講学期	1期	必修/選択	必修	授業形態	講義

概要/方針等

衛生学・予防医学分野は多くの医学・医療の領域に関与し、豊かな専門職の芽を育てる分野であり、同時に人の一生のあらゆる過程で関わり応用される臨床的要因も含まれ、基礎と臨床の架け橋となる分野である。

健康の維持には、空気や水、有害物質といった環境因子や食生活、飲酒、喫煙、労働等の日頃の生活習慣等、多くの要因が関連している。その中で、いかに健康で快適な生活を確保していくかを文化的、経済的、社会的な視点も考慮しながら追求し続けていく分野である。

人々の健康や生活を衛るための術を予防医学の観点を取り入れながら、EBM知見を活用して講義を進めていく。スライドや資料を中心に講義を行うが、コアカリキュラムや国家試験出題基準をすべてカバーすることは不可能である。学生の自学自習を前提とし、発展的に学習が行われることを期待したい。

学習目標

一般目標

基礎医学及び臨床医学で臓器別、機能別に学習してきた健康問題を、一人の人間が様々な生活環境とライフスタイルの中で経験する健康問題として総合的に見る視点を習得する。その視点をもとに、臨床現場でのプライマリ・ヘルス・ケア実践に必要な予防医学の方法論を学習する。

行動目標

予防医学入門1:健康・疾病・障害の概念と社会環境

- ①健康のとらえ方や疾病の概念について自分の言葉で説明できる。
- ②予防医学の視点と予防医学の重要性を説明できる。
- ③患者及び障がいを感じる立場から見た医療及び社会環境について考察し論述できる。

予防医学入門2:疾病の自然史と予防医学

- ①疾病の自然史について例を挙げて説明できる。
- ②疾病の要因分析の方法について例を挙げて説明できる。
- ③一次予防、二次予防、三次予防についてその意味を具体的に説明できる。

予防医学入門3:感染症の動向

- ①わが国と世界の感染症の動向と、感染症対策について説明できる。
- ②日本における結核の流行の特徴について概説できる。
- ③患者の人権(ハンセン病、エイズを例に)について考察し論述できる。

医療統計学1:保健医療統計の基礎

- ①保健医療統計(国際疾病分類、有病率、罹患率、年齢調整、生命表)を活用することができる。
- ②動態統計と静態統計の違いについて説明できる。
- ③保健医療統計から日本や世界の特徴をつかみ、予防医学的対策を考察し論述できる。

医療統計学2及び3:医療統計演習

- ①データを定量化することの意義、およびその具体的な方法について説明できる。
- ②偶然の変動と、意味のある変動の違いを統計学的な視点で説明できる。
- ③統計解析(χ^2 検定、t検定)ができ、その結果を解釈して説明できる。

医療統計学4:医療の中の統計学～その活用法～

- ①エビデンスに基づく研究の重要性を概説できる。
- ②医学研究の目的に即した統計手法使用の重要性を理解できる。
- ③良い研究デザインに必要な要件を説明できる。

環境医学1:環境の概念と地球環境

- ①環境の概念を述べることができる。
- ②地球環境の変化とその影響について例を挙げて説明できる。
- ③食物連鎖により生物濃縮を受けやすい物質を列挙し、例を挙げて、その仕組みを説明できる。

環境医学2:地域レベルの環境問題

- ①大気汚染に係わる環境基準の対象物質を列挙し、近年のその動向について説明できる。
- ②3つの水質に関する基準において、それぞれ「検出されないこと」となっている物質を列挙できる。
- ③物理的、化学的、生物学的環境要因とは何かを説明し、それぞれの要因による健康障害について具体的に説明できる。

環境医学3:日常生活の環境問題

- ①内分泌かく乱化学物質とは何かを説明し、具体的な物質名を列挙できる。
- ②日常生活環境に由来する健康障害の原因、症状、対策を述べるができる。
- ③感染性廃棄物の判断基準と医師に求められる対応について説明できる。

環境医学4:環境と健康、障がい

- ①障がいを感じる環境について例を挙げて説明できる。
- ②障がいを感じる立場からみた疾病や健康について概説できる。
- ③障がいを感じる方に対する支援方法を概説し実践できる。

産業医学1:産業医学の動向、産業医学の実践

- ①産業医の役割、職務について説明できる。
- ②労働災害、職業病、work related diseasesの用語の意味を説明できる。
- ③作業態様に起因する疾病について、人間工学に基づいた対策を立案できる。

産業医学2:産業中毒、労働衛生3管理・5管理

- ①労働衛生3管理、5管理について具体例を挙げて説明できる。
- ②産業中毒を引き起こす様々な因子について、その特徴を説明できる。
- ③許容濃度、管理濃度とは何か説明できる。

産業医学3:職業がんとうじん肺

- ①じん肺と職業がんに関して、その特徴と臨床場面における留意点を説明できる。
- ②リスクとは何かを理解し、リスクアセスメント、リスクマネージメントの意味と重要性を説明できる。
- ③医療従事者の健康リスクについて概説できる。

産業医学4:メンタルヘルス

- ①労働災害の原因と動向について説明できる。
- ②労働におけるストレスを列挙し、その対処方法としてのストレス・コーピングについて説明できる。
- ③「労働者の心の健康の保持増進のための指針」に基づく4つのケアについて、その名称と内容を説明できる。

予防医学の実践論1:国民栄養と疾病

- ①最近の栄養素等摂取状況を説明できる。
- ②栄養の欠乏及び過剰による疾病について例を挙げて説明できる。
- ③和食の特徴を生活習慣病予防の観点から述べるができる。

予防医学の実践論2:食品衛生・安全

- ①最近の食中毒の動向を説明できる。
- ②食中毒事件における「医師の届け出義務」について説明することができる。
- ③食品に表示が義務化されている特定原材料を列挙することができる。

予防医学の実践論3:飲酒、喫煙習慣とヘルスケア

- ①飲酒習慣や喫煙習慣が健康に及ぼす影響について概説できる。
- ②国民の喫煙・飲酒行動の動向について説明できる。
- ③喫煙・飲酒行動と保健医療政策の関係を概説できる。

予防医学の実践論4:農村医学と予防医学

- ①戦後における農村社会の変貌と農村医学の推移について概説できる。
- ②農業従事者に特有な疾病について、職業起因性疾病的の観点から予防医学的対策を述べることができる。
- ③農業労働による事故・災害の特徴とその予防対策について考察し論述できる。

予防医学の実践論5:ライフスタイルとヘルスケア

- ①運動が健康にもたらす効用について説明できる。
- ②特定健康診査の狙いについて、国民医療費の観点および予防医学の観点から説明できる。
- ③健康教育における行動変容ステージモデルについて説明できる。

テキスト	特に定めない
参考書	<p>NEW予防医学・公衆衛生学 岸玲子・他編 南江堂</p> <p>国民衛生の動向 厚生統計協会</p> <p>産業保健マニュアル 和田攻編 南山堂</p> <p>働く人々の病気 B. ラマツイーニ著 北海道大学図書刊行会</p> <p>病と死の文化 波平恵美子著 朝日選書</p> <p>暮らしの中の文化人類学 波平恵美子著 出窓社</p> <p>死の中の笑み 徳永進著 ゆみる出版</p> <p>医療と言葉 谷川俊太郎・浜田晋・徳永進著 ゆみる出版</p> <p>A Textbook of Family Medicine lan R. McWhinney, Oxford University Press, 1997 本学図書館所蔵(3冊)あり</p> <p>高度成熟社会の人間工学 伊藤謙治著 日科技連</p> <p>保健統計・疫学 福富和夫・橋本修二 南山堂</p> <p>エビデミック 川端裕人 角川書店</p> <p>基礎から学ぶ楽しい疫学 中村好一著 医学書院</p> <p>Epidemiology K.J.Rothman Oxford University</p> <p>産業医の職務Q&A 厚生労働省労働衛生課監修 産業医学振興財団</p> <p>講座人間と医療を考える全5巻 中川米造監修 弘文堂</p> <p>社会のなかの感染症 福見秀雄著 日本評論社</p> <p>Disease Mary Dobson著 小林力訳 医学書院</p> <p>感染地図 スティーブン・ジョンソン著 矢野真千子訳 河出書房新社</p>
評価方法	筆記試験と小テスト、受講態度等を合わせて総合的に評価を行う。
その他(メッセージ等)	試験は暗記を前提にした記憶力を問うのではなく、どれだけ理解したのかを問うことにします。講義時間にただノートに書き写し、内容を暗記して試験に臨むのではなく、講義の時間に内容を理解し、わからないことはその場で質問し、試験ではより深い考察ができるように心がけて下さい。

授業計画/担当教員等	
1. 4月7日(火)4時限	<p>予防医学入門1 健康・疾病・障がいの概念と社会環境 《福島哲仁》</p>
2. 4月7日(火)5時限	<p>予防医学入門2 疾病の自然史、ライフスタイル、ライフステージ、疾病の要因分析、一次予防、二次予防、三次予防 《福島哲仁》</p>
3. 4月14日(火)4時限	<p>予防医学入門3 感染症の動向、新興・再興感染症、結核、感染症関連法、検疫、予防接種 《早川岳人》</p>
4. 4月14日(火)5時限	<p>医療統計学1 人口統計、保健統計、国際疾病分類、有病率と罹患率、年齢調整死亡率、生命表 《早川岳人》</p>
5. 4月21日(火)4時限	<p>医療統計学2 (於:看護学部情報処理演習室) 医療統計演習 《早川岳人・全教員》</p>
6. 4月21日(火)5時限	<p>医療統計学3 (於:看護学部情報処理演習室) 医療統計演習 《早川岳人・全教員》</p>
7. 4月28日(火)4時限	<p>医療統計学4 医療の中の統計学~その活用法 《尾崎米厚(鳥取大学)》</p>
8. 4月28日(火)5時限	<p>環境医学1 環境の概念、地球の環境問題、生態系、生物濃縮 《熊谷智広》</p>
9. 5月12日(火)4時限	<p>環境医学2 地域の環境問題、空気、水、物理的環境 《熊谷智広》</p>
10. 5月12日(火)5時限	<p>環境医学3 日常生活の環境問題、有害物質、環境発癌物質、内分泌かく乱化学物質、環境起因性疾病、廃棄物 《熊谷智広》</p>
11. 5月19日(火)4時限	産業医学1

- 労働災害、職業病、Work related diseases、作業態様に起因する疾病、人間工学、産業医、職場の健康管理
《各務竹康》
12. 5月19日(火)5時限 環境医学4
環境と健康、障がい
《永幡幸司(福島大学)》
13. 5月26日(火)4時限 産業医学2
有機溶剤、金属、農薬、管理濃度、許容濃度、作業管理、作業環境管理、健康管理、労働衛生教育、総括管理
《各務竹康》
14. 5月26日(火)5時限 産業医学3
じん肺、職業がん、リスクアセスメント、リスクマネ-ジメント、実質安全量
《福島哲仁》
15. 6月2日(火)4時限 産業医学4
メンタルヘルス、ストレス、ストレスコーピング、疲労、過労死、過労自殺
《日高友郎》
16. 6月2日(火)5時限 予防医学の実践論1. 栄養とヘルスケア
国民栄養、栄養と疾病
《熊谷智広》
17. 6月9日(火)4時限 予防医学の実践論2. 生活環境因子とヘルスケア
食品衛生、食中毒
《熊谷智広》
18. 6月9日(火)5時限 予防医学の実践論3. 飲酒、喫煙習慣とヘルスケア
喫煙、飲酒習慣と予防医学
《神田秀幸(島根大学)》
19. 6月16日(火)4時限 予防医学の実践論4. 農村医学からみたヘルスケア
農村医学と予防医学、健康阻害要因、ヘルスプロモーション
《立身政信(岩手大学)》
20. 6月16日(火)5時限 予防医学の実践論5. ライフスタイルとヘルスケア
行動科学、健康行動モデル、健康教育、運動
《日高友郎》

担当教員

福島哲仁	教授	福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座
早川岳人	准教授	福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座
熊谷智広	講師	福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座
各務竹康	学内講師	福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座
日高友郎	助手	福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座
尾崎米厚	教授	鳥取大学 非常勤講師
立身政信	教授	岩手大学 非常勤講師
永幡幸司	准教授	福島大学 非常勤講師
神田秀幸	教授	島根大学 非常勤講師

科目・コース(ユニット)名	社会医学 (公衆衛生学)【医学4】						
(英語名称)	Social Medicine (Public Health)						
担当責任者	安村 誠司						
開講年次	4年	開講学期	1期	必修/選択	必修	授業形態	講義

概要/方針等

公衆衛生学の授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの教育内容ガイドラインに示された項目B:医学・医療と社会に含まれる「社会・環境と健康」、「地域医療」、「生活習慣と疾病」、「保健、医療、福祉と介護の制度」といった環境と健康や保健・医療・福祉・介護などの社会的側面についての学習項目を含む。テキスト及び資料を中心に講義を進めるが、範囲が極めて広いため、すべてをカバーすることは不可能である。このため、学生の自学自習を前提とする。

各論としては、さまざまな分野における健康現象を取り上げる。いくつかの分野においてその領域で第一線で活躍されている方に学外から来て頂き、講義をして頂く予定である。

学習目標

【一般目標】

地域における疾病予防と健康増進を目指した地域保健・医療活動ができるようになるために、社会における健康課題とその成因・背景を、疫学を基礎として理解する。また、ライフ・サイクルに添った健康課題に対して、根拠に基づく予防対策(Evidence-based Medicine/Public Health)を身につける。臨床医学と公衆衛生学が密接に関連していることを理解するのが目標である。

【行動目標】

公衆衛生学の基礎

- 総論:公衆衛生学がどのような学問か説明できる。
- 地域で公衆衛生医師として働く:国内外における地域保健・医療での医師、研究者の役割を説明できる。
- 地域医療を担う医師として働く:地域医療と医師の役割を説明できる。

生涯を通じた健康づくり

- 出生前・周産期:リプロダクティブヘルスの概念と日本における主要課題を説明できる。
- 周産期・乳幼児期:母子保健行政の仕組みと母子保健サービスの概要を説明できる。
- 学童期・思春期・青年期:保健教育および保健管理について概説できる。
- 成人期:主な生活習慣病の動向、その発生要因、及び予防方を概説できる。
喫煙と疾病の関係と禁煙指導を説明できる。
地域精神保健および地域保健法を概説できる。
- 高齢期:高齢社会及び高齢者の実態を説明できる。
高齢者への保健・医療・福祉施策を概説できる。

公衆衛生学特論

- プリオン病:特定疾患やプリオン病の実態を説明できる。
根拠に基づく健康政策の実践例を説明できる。
- がん:がんの疫学、対策、統計・登録、健診について説明できる。
- 医療経済:医療の経済的特殊性について具体的に説明できる。
日本の医療費上昇の要因とその対策について説明できる。

テキスト	新簡明衛生公衆衛生改訂第6版 丸井英二編 南山堂 (本体4,500円 + 税)
参考書	NEW予防医学・公衆衛生学改訂第3版 岸玲子・古野純典・大前和幸・小泉昭夫編 南江堂 (本体6,000円 + 税) 国民衛生の動向 厚生統計協会(毎年8月下旬に発刊) (本体2,286 + 税) 公衆衛生マニュアル 柳川洋・中村好一編 南山堂 (本体5,500 + 税)
評価方法	評価は筆記試験、受講態度を合わせて総合的に行い、60点以上を合格とする。
その他(メッセージ等)	講義にはテキスト・配布資料は原則的に毎回持ってくること。 講義でコア・カリキュラムすべてをカバーすることは困難であり、不足分は自学・自習が必須である。

授業計画/担当教員等

【授業計画】

- 1回・4月 3日(金)2時限/公衆衛生学の基礎:総論(公衆衛生学とはどんな学問か?)
キーワード(疫学と予防医学、ブロードストリートコレラ事件、
Evidence-based Public Health、ヘルスプロモーション)
安村誠司

- 2回・4月 3日(金)3時限／生涯を通じた健康づくり:成人期①(日本人の健康状態・難病)
キーワード(生活習慣と疾病、健康日本21)
安村誠司
- 3回・4月10日(金)2時限／公衆衛生学の基礎:地域医療を担う医師として働く(診療所医師として)
キーワード(地域医療、診療所、連携)
小川裕(やまがた保健生活協同組合しろにし診療所)
- 4回・4月10日(金)3時限／生涯を通じた健康づくり:出生前・周産期
キーワード(リプロダクティブヘルス、家族計画、少子化、性感染症)
後藤あや
- 5回・4月17日(金)2時限／生涯を通じた健康づくり:周産期・乳幼児期
キーワード(母子保健サービス、母子健康手帳、母子保健指標、育児支援)
加藤則子(十文字学園女子大学)
- 6回・4月17日(金)3時限／生涯を通じた健康づくり:学童期・思春期・青年期
キーワード(学校保健、発育発達支援、保健管理、健康教育)
佐藤理(福島学院大学)
- 7回・4月24日(金)2時限／公衆衛生学特論:プリオン病
キーワード(プリオン病、疫学、感染症、医原病)
中村好一(自治医科大学)
- 8回・4月24日(金)3時限／公衆衛生学の基礎:地域で公衆衛生医として働く(国際保健の立場から)
キーワード(協力体系、プロジェクト)
後藤あや
- 9回・5月 1日(金)2時限／生涯を通じた健康づくり:成人期②(生活習慣病のリスクと予防:総論)
キーワード(ライフスタイル、メタボリックシンドローム)
安村誠司
- 10回・5月 1日(金)3時限／生涯を通じた健康づくり:成人期④(メンタルヘルス)
キーワード(精神保健医療福祉行政、地域精神保健活動、自殺予防対策)
大類真尋(仙台市健康福祉局精神保健福祉総合センター)
- 11回・5月 8日(金)2時限／公衆衛生学特論:がんの疫学
キーワード(がん対策、がん統計、がん予防、がん検診)
祖父江友孝(大阪大学大学院)
- 12回・5月 8日(金)3時限／生涯を通じた健康づくり:成人期③(生活習慣病のリスクと予防:各論)
キーワード(糖尿病、高血圧、高脂血症)
安村誠司
- 13回・5月15日(金)2時限／生涯を通じた健康づくり:高齢期①(高齢社会:総論)
キーワード(老化、高齢者における健康、健康寿命、閉じこもり)
伊藤慎也
- 14回・5月15日(金)3時限／公衆衛生学特論:医療経済
キーワード(医療費、医療保険、モラルハザード、診療報酬制度)
小林廉毅(東京大学大学院)
- 15回・5月22日(金)1時限／生涯を通じた健康づくり:高齢期②(老年症候群 老年病)
キーワード(老年症候群、老年病総論・各論)
安村誠司
- 16回・5月22日(金)2時限／生涯を通じた健康づくり:高齢期③(高齢者保健対策)
キーワード(高齢者保健対策、QOL、生命倫理)
安村誠司
- 17回・5月29日(金)1時限／公衆衛生学の基礎:地域で公衆衛生医として働く(保健所の立場から)
キーワード(保健所、地域保健、健康危機管理)
金成由美子(福島県南会津保健所)
- 18回・5月29日(金)2時限／生涯を通じた健康づくり:高齢期④(介護予防)
キーワード(介護保険と介護予防、社会参加、サクセスフル・エイジング)
黒田佑次郎
- 19回・6月 5日(金)1時限／公衆衛生学特別講義:原子力災害の公衆衛生
キーワード(県民健康調査、リスクコミュニケーション)
安村誠司
- 20回・6月 5日(金)2時限／公衆衛生学の基礎:地域で公衆衛生医として働く(研究者の立場から)
キーワード(疫学と政策科学、政策評価、閉じこもり予防事例、地域保健、健康政策)
安村誠司

【担当教員】

安村 誠司:福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座／教授
後藤 あや:福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座／准教授
岩佐 一:福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座／講師
伊藤 慎也:福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座／助教
黒田 佑次郎:福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座／助教

【非常勤講師】

大類 真尋:仙台市健康福祉局精神保健福祉総合センター／主幹
小川 裕:やまがた保健生活協同組合しろにし診療所／所長
加藤 則子:十文字学園女子大学幼児教育学科／教授
金成 由美子:福島県南会津保健所／所長・福島県南会津保健福祉事務所／副所長
小林 康毅:東京大学大学院医学系研究科公衆衛生学／教授
佐藤 理:福島学院大学福祉学部 福祉心理学科／教授
祖父江 友孝:大阪大学大学院医学系研究科予防環境医学専攻社会環境医学講座／教授
中村好一:自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門／教授

科目・コース(ユニット)名	社会医学(疫学)【医学4】						
(英語名称)	Epidemiology						
担当責任者	大平 哲也						
開講年次	4年	開講学期	I 期	必修/選択	必修	授業形態	講義

概要/方針等

疫学とは、目の前で起きている健康事象が、どのような状況であり、なぜ発生し、どうすれば解決できるかを、集団を対象として知る学問である。疫学的な証明がなければ、疾病と要因の因果関係、検査や治療の妥当性は推定できないため、全ての臨床・予防医学における基礎的な学問と言える。例えば、脳卒中の最も重要な危険因子は高血圧であることがよく知られているが、同じ高血圧であってもその地域によって要因は異なる可能性がある。農村部では塩分の過剰摂取や飲酒が高血圧を引き起こしている可能性がある一方で、都市部では心理的ストレスや肥満が影響している可能性がある。したがって、地域・職域で予防活動を行うためには、その集団全体を分析し、その集団に合わせた対策が必要である。本講義では、地域・職域における疫学研究の実際を示し、臨床や予防活動の現場で役に立つ疫学手法を学ぶことを目標とする。

学習目標

一般目標

本講義では、臨床及び予防医学の実際の現場において、対象となる集団における健康問題を適切な手法を用いて分析し、結果からその要因を正しく解釈し、具体的な対策を立てることができるための知識を身につけることを目標とする。

行動目標

- 1) 疫学の概念を理解し、疫学指標、曝露と疾病、偏りと交絡、因果関係、スクリーニング等の用語を説明できる
- 2) 疫学研究方法(観察研究、生態学的研究、横断研究、症例対照研究、前向き研究、介入研究、臨床疫学)の違いを説明できる
- 3) 循環器疫学、生活習慣病の疫学、ストレス関連疾患の疫学を理解する

テキスト	特に指定しない。毎回の授業において資料を配布する。
参考書	基礎から学ぶ楽しい疫学(医学書院、中村好一著) 循環器疾患コホート研究の手引き(メディカルビュー社、小澤利男他編)
評価方法	出席、授業中の課題、発表 50% 試験結果 50% (試験には3分の2以上の出席を持って受験可能とする)
その他(メッセージ等)	本講義は参加型の授業とするため学生の積極的な発言を望みます。 初回講義において授業上の注意点や評価方法を詳しく説明しますので必ず出席してください。

授業計画/担当教員等

月日	時間	項目	担当	内容(キーワード等)
1回 6月1日(月)	8:40~9:40	疫学総論①	大平哲也	疫学の概要、曝露と疾病、疫学指標
2回 6月1日(月)	9:50~10:50	疫学研究方法①	大平哲也	観察研究
3回 6月1日(月)	11:00~12:00	疫学研究方法②	大平哲也	生態学的研究
4回 6月1日(月)	13:00~14:00	特別講義①	磯 博康	循環器疫学
5回 6月8日(月)	8:40~9:40	疫学研究方法③	大平哲也	横断研究
6回 6月8日(月)	9:50~10:50	疫学研究方法④	大平哲也	前向き研究、症例対照研究
7回 6月8日(月)	11:00~12:00	疫学研究方法⑤	大平哲也	介入研究(個別介入、地域介入)
8回 6月8日(月)	13:00~14:00	特別講義②	永田勝太郎	全人的医療の理論と実際
9回 6月15日(月)	8:40~9:40	疫学総論②	大平哲也	偏りと交絡、因果関係
10回 6月15日(月)	9:50~10:50	疫学総論③	大平哲也	スクリーニング
11回 6月15日(月)	11:00~12:00	疫学各論①	大平哲也	ストレス関連疾患の疫学
12回 6月15日(月)	13:00~14:00	疫学各論②	大平哲也	疫学研究の新しい展開(笑いと健康)

科目・コース(ユニット)名	社会医学 (衛生学・公衆衛生学・疫学実習)【医学4】						
(英語名称)	Social Medicine (Family Health Practice Tutorial / Public Health Practicum / Epidemiology Practicum)						
担当責任者	福島哲仁・安村誠司・大平哲也						
開講年次	4年	開講学期	2期	必修／選択	必修	授業形態	実習

概要／方針等

【衛生学・予防医学講座】

衛生学・予防医学講座担当の実習においては、一般家庭を二人一組で訪問し、クライアントの健康問題と、その背景にある生活問題、社会問題を把握し、解決法を検討する問題解決型の実習を行う。問題解決の検討過程において、チュートリアル形式のディスカッション、情報収集を実施する。実習の最後には発表会、報告書の作成を行う。

【公衆衛生学講座】

公衆衛生学の実習においては、地域における現実の課題を理解し、自ら問題を設定してその解決策までを考える実践的な課題解決能力の育成を目指した参加型実習を取り入れる。具体的には、文献学習、学外の施設における見学、面接聞き取りや質問紙による調査などを行い、学会形式による発表会、研究論文形式の実習報告書の作成などである。

【疫学講座】

疫学講座の実習においては、地域・職域・患者集団等を対象として、疫学的手法を用いて集団の健康課題を抽出すること、及び健康課題に対する介入を行うことを通して、健康問題の解決のための具体的な方策を学ぶ。具体的には地域及び職域の大規模疫学データを横断的、縦断的に解析することにより、健康問題を引き起こす因子を同定すること、及び地域住民を対象として健康教室等の介入を行い、健康問題の解決を図る。実習の最後には発表会、報告書の作成を行う。

学習目標

【衛生学・予防医学講座】

教育目標

実際の家庭に赴き、健康問題がクライアント及びその家族の生活にどのような影響を及ぼしているのか、また逆に、生活がどのように健康問題を生じさせる背景要因となっているのかを、疾病の有無、病因、受診状況から捉えるだけでなく、家族の構造面、発達面、機能面、情緒面などの観点から総合的に把握する。クライアントの抱える健康問題を生活者の視点と将来医療に携わる医学生生の視点の両面から把握し、解決策・支援の方法を学習する。

行動目標

- 1) クライアントとの協力関係を、将来医療に携わる者の立場から構築する
- 2) クライアントの生活環境や社会的な背景に、積極的に具体的な関心を示し、主体的に学習することができる
- 3) クライアントから得た情報(問題点、背景、優先度)を理解し、自らの言葉で整理できる
- 4) クライアントの治療や援助に必要な家庭的/社会的な背景を具体的に引き出せる
- 5) クライアントから得た問題点の解決に向けて、多角的に情報収集、考察を行い、具体的な解決策・支援の方法を提示できる
- 6) クライアントに対し社会人としてのマナーを持ち、正しい身なり・言葉遣いで接することができる
- 7) クライアントのプライバシーに配慮できる
- 8) 医療人となるべき者として自分の役割と義務、権利を理解できる
- 9) 積極的に討論に参加し、学習課題を見いだせる
- 10) 自らの学習内容を整理し、論理的に報告できる

【公衆衛生学講座】

一般目標

講義で学習した公衆衛生学の系統的知識、技術を地域という生活の場で活用できるようになるために、保健、医療、福祉の第一線で働くスタッフや住民と実際に接し、当事者の生の声と生活する様から学び、実習活動を通じて社会医学の調査方法と、その結果の活用方法を身につける。

行動目標

- 1) 地域の公衆衛生活動の理論と方法について具体的に説明できる。
- 2) 地域の公衆衛生学上の問題点を把握し列挙できる。
- 3) 地域の公衆衛生学上の問題の解決策を提示できる。
- 4) 学習(実習)計画を自主的に立て、実践することができる。
- 5) 学習成果を論理的・効果的に発表し、報告書にまとめることができる。

【疫学講座】

一般目標

疫学の講義で学習した疫学研究手法を用いて実際のデータを解析することにより、集団の健康問題を明らかにする能力を身につける。また、地域の現場に入り、住民と一緒に疾病予防・健康維持のための活動を行うことで、具体的な対策方法を身につける。

行動目標

- 1) 集団のデータを解析するための疫学手法を提示できる。
- 2) 集団のデータを解析して健康問題を抽出できる。
- 3) 集団の健康問題に対して具体的な対策を提示・実践できる。
- 4) 学習成果を論理的・効果的に発表し、報告書にまとめることができる。

テキスト	
参考書	
評価方法	<p>【衛生学・予防医学講座】 実習態度、レポート、実習発表会、実習報告書を含めた個人評価などで総合的に評価する。</p> <p>【公衆衛生学講座】 学習の過程、実習発表会、報告書、実習態度を含めた個人評価などで総合的に評価する。</p> <p>【疫学講座】 実習への参加態度、実習発表会、実習報告書を含めた個人評価などで総合的に評価する。</p>
その他(メッセージ等)	

授業計画/担当教員等

【衛生学・予防医学講座】

- 1回・ 7月10日(金)1時限 /実習(オリエンテーション)/教員全員
- 2, 3回・ 7月10日(金)2, 3時限 /実習(コミュニケーショントレーニング)/教員全員
- 4- 6回・ 7月10日(金)4-6時限/実習(スキルトレーニング)/教員全員
- 7- 9回・ 7月17日(金)1-3時限/実習(家庭訪問1回目)/教員全員
- 10-12回・ 7月17日(金)4-6時限/実習(グループミーティング)/教員全員
- 13-15回・ 7月24日(金)1-3時限/実習(コミュニケーショントレーニング)/教員全員
- 16-18回・ 7月24日(金)4-6時限/実習(チュートリアル・情報収集)/教員全員
- 19-21回・ 9月11日(金)1-3時限/実習(家庭訪問2回目)/教員全員
- 22-24回・ 9月11日(金)4-6時限/実習(グループミーティング)/教員全員
- 25-30回・ 9月18日(金)1-6時限/実習(小グループ内ケースカンファレンス)/教員全員
- 31-33回・ 9月25日(金)1-3時限/実習(家庭訪問3回目)/教員全員
- 34-36回・ 9月25日(金)4-6時限/実習(グループミーティング)/教員全員
- 37-42回・10月 2日(金)1-6時限/実習(発表会準備・報告書作成)/教員全員
- 43-46回・10月 9日(金)1-4時限/実習発表会/教員全員
- 47, 48回・10月 9日(金)5, 6時限/報告書作成/教員全員

<担当教員>

- 福島 哲仁: 福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座/教授
- 早川 岳人: 福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座/准教授
- 熊谷 智広: 福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座/講師
- 各務 竹康: 福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座/学内講師
- 辻 雅善: 福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座/助教
- 日高 友郎: 福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座/助手
- 永幡 幸司: 福島大学共生システム理工学類/准教授

【公衆衛生学講座】

<授業計画>

- 1回・ 7月10日(金)1時限/実習(オリエンテーション)/教員全員
- 2-6回・ 7月10日(金)2-6時限/実習(グループミーティング)/教員全員
- 7-12回・ 7月17日(金)1-6時限/実習(実地・グループミーティング)/教員全員
- 13-18回・ 7月24日(金)1-6時限/実習(実地・グループミーティング)/教員全員
- 19-24回・ 9月11日(金)1-6時限/実習(実地・グループミーティング)/教員全員
- 25-30回・ 9月18日(金)1-6時限/実習(実地・グループミーティング)/教員全員
- 31-36回・ 9月25日(金)1-6時限/実習(実地・グループミーティング)/教員全員
- 37-42回・10月 2日(金)1-6時限/実習(発表準備)/教員全員

43-45回・10月 9日(金)1-3時限／実習発表会／教員全員
46回・10月 9日(金)4時限／講評・報告書作成／教員全員
47, 48回・10月 9日(金)5, 6時限／報告書作成／教員全員

<担当教員>

安村 誠司：福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座／教授
後藤 あや：福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座／准教授
岩佐 一：福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座／講師
伊藤 慎也：福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座／助教
黒田 佑次郎：福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座／助教

【疫学講座】

<授業計画>

1回・7月10日(金)1時限／実習(オリエンテーション)／教員全員
2-6回・7月10日(金)2-6時限／実習(グループミーティング)／教員全員
7-12回・7月17日(金)1-6時限／実習(実地・グループミーティング)／教員全員
13-18回・7月24日(金)1-6時限／実習(実地・グループミーティング)／教員全員
19-24回・9月11日(金)1-6時限／実習(実地・グループミーティング)／教員全員
25-30回・9月18日(金)1-6時限／実習(実地・グループミーティング)／教員全員
31-36回・9月25日(金)1-6時限／実習(実地・グループミーティング)／教員全員
37-42回・10月 2日(金)1-6時限／実習(発表準備)／教員全員
43-45回・10月 9日(金)1-3時限／実習発表会／教員全員
46回・10月 9日(金)4時限／講評・報告書作成／教員全員
47, 48回・10月 9日(金)5, 6時限／報告書作成／教員全員

<担当教員>

大平 哲也：福島県立医科大学医学部疫学講座／教授
章 文：福島県立医科大学医学部疫学講座／助教
広崎 真弓：福島県立医科大学医学部疫学講座／助教
永井 雅人：福島県立医科大学医学部疫学講座／助教
中野 裕紀：福島県立医科大学医学部疫学講座／助手

科目・コース(ユニット)名	社会医学 (法医学)【医学4】						
(英語名称)	Social Medicine (Legal Medicine)						
担当責任者	黒田 直人						
開講年次	4年	開講学期	2期	必修/選択	必修	授業形態	講義・実習

概要/方針等

法医学の授業では、主に人の死に関わる医学的問題に適切に対処できるよう、死因、様々な外因(中毒を含む)、個人識別ならびに医師として知っておかなければならない医事関係法規などの基礎知識の習得を目的としています。講義出席日数は本学諸規則に準じて厳重にチェックされます。実習は必修です。

学習目標

- 一般目標
- 1 医師として知っていなければならない法医学的基礎知識を修得する。
 - 2 医学的知識に基づいた法律上の問題解決を志向する必要性と重要性とを理解する。
- 行動目標
- 1 医師としての法的義務を列挙できる。
 - 2 死因の概念と因果関係の考え方を説明でき、死亡診断書・死体検案書等の文書を正しく記載・交付できる。
 - 3 人の死体現象(死後変化)を列挙し、その意義を説明できる。
 - 4 外因とその結果生じた所見との関係を列挙でき、外因と死因の因果関係を説明できる。
 - 5 窒息所見を列挙でき、その発生機序を説明できる。
 - 6 生・死産児の鑑別および新産児の成熟度判定法を説明できる。
 - 7 内因性急死を来す主な疾患の臨床的・病理的特徴を理解し、外因死と内因死を区別できる。
 - 8 乳幼児突然死症候群の概念を理解し、問題点を列挙できる。
 - 9 血液型(表現型多型)及びDNA 多型に関する知識を修得する。
 - 10 血痕・体液斑からの血液型・DNA 型判定方法、および親子鑑定の手続きを理解する。
 - 11 法医学で重要な薬毒物の毒性機序を説明でき、臨床・死体所見から中毒起因物質の推定ができる。
 - 12 依存性薬物の基礎的知識および法律的問題点を理解する。

テキスト	法医学(改訂第3版) 福島弘文編 2015年1月発行 南山堂 5940円(税込)
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・標準法医学(第7版) 石津日出雄・高津光洋監修 2013年1月発行 医学書院 5940円(税込) ・NEWエッセンシャル法医学(第5版) 高取健彦監修 2012年7月発行 医歯薬出版 9180円(税込) ・臨床医のための法医学(改訂12版) 赤石 英著 1983年3月発行 南江堂 8424円(税込) ・死体の視かた 渡辺博司・齋藤一之著 2010年2月発行 東京法令出版 2700円(税込) (その他多くの分野別参考書があるので、詳しくは法医学講座を気軽に訪問し問い合わせてください。)
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 試験得点(90点満点)と実習レポート得点(10点満点)を総合し100点満点で評価します。 2 出席状況と授業態度を重視します。遅刻や、授業途中の抜け出し、いわゆる内職(授業と無関係の作業を行うこと)は、厳しく減点します。 3 実習は必修です。遅刻・欠席は試験の受験資格を失いますので、十分注意してください。
その他(メッセージ等)	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業内容で理解できない点や質問は放置せず、授業終了時に担当教員に気軽に申し出てください。 2 授業の準備には教員一同尽力しますが、要望がある場合には申し出てください。 3 授業で供覧するスライド画像の撮影を禁止します。授業の後、更に見たい場合には、担当教員に申し出てください。撮影が発覚した場合には、本学学則第34条第1-4項による対応がとられます。

授業計画/担当教員等

回数	月日	曜日	時限	項目	内容(キーワード)	担当
1	6 29	月	1	法医学入門	法医学の業務内容概説	黒田
2	6 29	月	2	死と法	医師と法律 医事法 各種届出義務	黒田
3	6 29	月	3	死後変化	各種の死後変化	黒田
4	7 6	月	1	創傷	各種の創傷と所見の意義	黒田
5	7 6	月	2	頭部外傷	致命的頭部外傷と関連病態	黒田
6	7 6	月	3	窒息	種々の窒息の特徴、頸部圧迫	西形
7	7 13	月	1	異常環境による死	熱傷、焼死、低体温症	水澤
8	7 13	月	2	交通事故	交通外傷のメカニズム、交通事故に関連した死	加藤
9	7 13	月	3	小児の法医学	新産児殺、乳児の突然死、児童虐待	黒田
10	9 7	月	1	血液型・DNA検査	遺伝的多型と遺伝様式、血液型・血清型、赤血球酵素型、DNA 型	阿部
11	9 7	月	2	血液型・DNA検査	血液型 DNA 型による親子鑑定と個人識別	阿部
12	9 7	月	3	血液型・DNA検査	血液型 DNA 型による親子鑑定と個人識別	阿部

13	9 14	月	1	法人類学	法人類学の業務内容	橋本
14	9 14	月	2	法人類学	硬組織による個人識別	橋本
15	9 14	月	3	法人類学	事例供覧	橋本
16	9 28	月	1	中毒学総論	中毒の概念 基礎知識	栗崎
17	9 28	月	2	有害ガス	一酸化炭素、硫化水素、青酸の毒性機序	栗崎
18	9 28	月	3	有害物質	農薬、除草剤の毒性機序	栗崎
19	10 5	月	1	依存性薬物1	乱用薬物、アルコール、有機溶剤の作用機序	栗崎
20	10 5	月	2	依存性薬物2	向精神薬の作用機序と毒性	栗崎
21	10 5	月	3	薬毒物分析法	分析試料の採取・保存・分析法	栗崎
22	10 15	木	4	中毒学実習	未知物質の分析	全員
23	10 15	木	5	中毒学実習	未知物質の分析	全員
24	10 15	木	6	中毒学実習	未知物質の分析	全員
25	10 19	月	1	臨床医学と法医学	医療事故、事例研究	加藤・西形
26	10 19	月	2	症例研究	症例の死因・受傷機序診断	水澤
27	10 19	月	3	死亡診断書の書き方	死亡診断書・死体検案書作成	黒田

担当教員一覧

教員氏名	職	所属	備 考
黒田直人	教授	法医学	
栗崎恵美子	講師	法医学	
水澤郁文	助教	法医学	
加藤菜穂	助教	法医学	
西形里絵	助教	法医学	
阿部すみ子	非常勤講師	高崎健康福祉大学薬学部	
橋本正次	非常勤講師	東京歯科大学法歯学・法人類学講座	

科目・コース(ユニット)名	医療入門1 (症候論とケーススタディ・高齢者…)【医学4】					
(英語名称)						
担当責任者	渡辺 毅 渡辺浩志 石川和信					
開講年次	4年	開講学期		必修／選択		授業形態

概要／方針等

患者さんは様々な自覚症状(symptom)を持って病院を訪れます。また、患者さんの診察時に様々な徴候(sign)が観察されます。これら症候(自覚症状と徴候)は患者さんの悩みであると同時に、疾患診断の糸口でもあります。このユニットでは、コアカリキュラムに含まれる主要な症候について、発現メカニズム、病態、分類や鑑別を要する疾患、その鑑別の要点、高齢者の診療に重要なポイントなどの基本事項を学びます。さらに、各症候の症例検討(ケーススタディ)を行うことで、重要な症候を出発点とした疾患の診断プロセスを体験することで論理的アプローチの方法を習得すると同時に、基本的な治療の概要を学習します。

学習目標

一般目標
 主な症候・病態の原因、分類とこれら症候を呈する患者の診断と治療の概要を理解する。

行動目標
 各症候の原因と病態生理を説明できる。
 各症候を呈する疾患を列挙し、それらの鑑別の要点を説明できる。
 各症候を呈する疾患の鑑別診断プロセスを説明できる。
 高齢者の身体的特徴と疾患を理解できる。

テキスト	配布資料
参考書	ハリソン内科学 内科学(文光堂) 内科学(朝倉書店)
評価方法	
その他(メッセージ等)	

授業計画／担当教員等

後日内容に関しては連絡します

科目・コース(ユニット)名	医療入門1 (臨床実習入門)【医学4】						
(英語名称)	Introduction to Clinical Medicine ~ Clinical Skills ~						
担当責任者	石川 和信						
開講年次	4年	開講学期		必修/選択	必修	授業形態	実習

概要/方針等

診療参加型臨床実習の事前教育として、診療の現場で必要とされる臨床能力を広く理解する。シミュレーションやモデル等を最大限、活用して、充実した臨床実習を行うために必要な医学知識・技能・態度を身につける。共用試験OSCEで求められている学習項目を確実に修得することを心がけてほしい。

学習目標

一般目標:

診療参加型の臨床実習を行うために、共用試験OSCEで求められている基本的なクリニカル・スキル(臨床技能・態度)を確実に習得する。

行動目標:

- 1 SP実習やロールプレイで適切な医療面接を行うことができる。
- 2 全身の身体診察(頭頸部、胸部、腹部、四肢、神経系)を系統的に行うことができる。
- 3 基本的な検査手技を行うことができる。
- 4 清潔操作を理解し、基本的な外科手技を正しく実施できる。
- 5 基本的な救急救命の処置ができる。

テキスト	臨床実習開始前の「共用試験」第8版 社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構(CATO)
参考書	ベイツ診察法 福井次矢、井部俊子 メディカルサイエンスインターナショナル ISBN-13: 978-4895924924
評価方法	この学習ユニットは共用試験OSCEの準備教育として位置づけられる。OSCEを確実に合格できるように授業時間のみならず、スキルラボを活用した自主学習を計画的に行うことが求められる。 医療入門コースの評価は、「症候論とケーススタディ」「医療と社会」「臨床実習入門」「プライマリケアと地域医療」の4つのユニットの評価に加え、共用試験医学系「CBT」及び「OSCE」の結果を総合して行う。 各ユニットの評価は、講義及び実習への出席状況、毎回の講義の最後の簡単なレポート、期末考査におけるペーパー試験、提出課題等に基づき、総合的に行うこととなる。
その他(メッセージ等)	臨床実習に臨む前に確実な基本的診療技能の獲得に各自、努めること。スキルラボ・アドバンスがOSCE前に練習のためにオープンアクセスとなるので、積極的な個人・グループ学習を反復して、スキルを自信を持って行えるようにしてください。

授業計画/担当教員等

【授業計画】

授業計画は、別途周知する。

臨床技能に関する基本的な説明とグループに分かれての臨床技能実習を行う

【担当教員】

石川 和信 准教授 医療系育成・支援センター

各臨床講座 教員……共用試験のステーション担当毎に分担して臨床準備教育を行う

科目・コース(ユニット)名	医療入門1 (医療と社会)【医学4】						
(英語名称)							
担当責任者	藤野美都子 佐藤薫						
開講年次	4年	開講学期	3期	必修/選択	必修	授業形態	講義とグループワーク

概要/方針等

医療は人の社会的営みという広い文脈の中に存在すると考えられる。しかし、今日の医療は医療技術の進歩の側面ばかりを追い求めるあまり、患者・家族の社会性や、患者の個人的な‘死’については無視されてきたと考えられる。そのために、患者・家族だけではなく、医療者自身にも様々な問題が生じてきている。日本においても全人的な緩和医療の機運が高まってきているが、「緩和医療」の授業では、医療者の前に一人の‘人’として、死について深く考え、そして医療者として、がん患者の症状コントロールやコミュニケーション技術を学ぶ場としたい。

さらに、医療者には、日々の臨床現場で、あるいは、先端医療の現場で直面する倫理的諸問題に対処することも求められている。「臨床倫理」の授業は、患者および家族の立場を理解したうえで、日々の医療に従事する姿勢を受講生が学ぶことのできる場としたい。

学習目標

<<緩和医療>>

一般目標

①全人的な医療を提供するために、緩和医療の基本的な知識、技術を学ぶとともに、「人」に接する態度を習得する。

行動目標

- ①緩和医療は何かを説明できる。
- ②緩和医療の必要性を説明できる。
- ③包括的がん医療を説明できる。
- ④がん性疼痛の治療の概要について説明できる。
- ⑤悪い知らせを伝えることの重要性とその問題について説明できる。

<<臨床倫理>>

一般目標

- ①臨床倫理の基本的事項を把握することにより、臨床現場で生じる様々な倫理的問題に対処する能力を身につける。
- ②先端医療をめぐる倫理的諸問題について理解することにより、先端医療にかかわる際の態度を身につける。

行動目標

- ①臨床倫理の歴史を説明できる。
- ②臨床倫理検討シートの使い方を説明できる。
- ③患者・家族の立場から、臨床倫理を考えることができる。
- ④チーム医療の重要性について説明できる。
- ⑤先端医療をめぐる倫理的諸問題について説明できる。
- ⑥臓器移植をめぐる倫理的諸問題について説明できる。
- ⑦遺伝子診断・治療、遺伝カウンセリングについて説明できる。
- ⑧治験について説明できる。
- ⑨国および機関内倫理審査制度について説明できる。

テキスト	特に指定しない。
参考書	トワイクロス先生のがん患者の症状マネジメント(医学書院・2003年)3,675円 がん医療におけるコミュニケーション・スキル 悪い知らせをどう伝えるか(医学書院・2007年)2,940円 A.R.ジョンソンほか(赤林朗・大井玄監訳)『臨床倫理学 臨床医学における倫理的決定のための実践的アプローチ(第5版)』新興医学出版社・2006年 G.E.ペンス(宮坂道夫・長岡成夫訳)『医療倫理 よりよい決定のための事例分析』みすず書房・2000年 赤林朗編『入門・医療倫理 I』勁草書房・2005年 樋口範雄編『ケース・スタディ 生命倫理と法(第2版)』有斐閣・2012年 『新版増補 生命倫理事典』太陽出版・2010年
評価方法	授業への出席と参画態度により評価する。
その他(メッセージ等)	

授業計画/担当教員等

＜緩和医療＞

回数	開催日時	時限	項目	内容	担当者
[1]	11月13日(金)	4限	死生学Ⅰ	死と生の希望について考える	竹之内 裕文
[2]	11月13日(金)	5限	死生学Ⅱ	死と生の希望について考える	竹之内 裕文
[3]	11月13日(金)	6限	死生学Ⅲ	死と生の希望について考える	竹之内 裕文
[4]	11月18日(水)	1限	総論	包括的緩和医療、トータルペイン	佐藤 薫
[5]	11月18日(水)	2限	入門	家で家族を看取ること	高橋 まり
[6]	11月25日(水)	1限	症状マネジメントⅠ	がん性疼痛	佐藤 薫
[7]	11月25日(水)	2限	症状マネジメントⅡ	呼吸困難など	佐藤 薫
[8]	12月2日(水)	1限	症状マネジメントⅢ	在宅医療	鈴木 雅夫
[9]	12月16日(水)	1限	症状マネジメントⅣ	精神腫瘍学	三浦 至
[10]	12月16日(水)	3限	コミュニケーション技術	悪い知らせの伝え方(ロールプレイ)	佐藤 薫

[緩和医療授業担当者一覧]

竹之内裕文 静岡大学創造科学技術大学院・農学部教授
 鈴木雅夫 医療法人社団爽秋会理事長 ふくしま在宅緩和ケアクリニック院長
 高橋まり 遺族
 三浦 至 福島県立医科大学神経精神医学講座
 佐藤 薫 福島県立医科大学麻酔科学講座講師

＜臨床倫理＞

回	開講時間	項目	内容	担当者
1	11月13日3限	講義案内・臨床倫理入門①	臨床倫理の基本的概	末永恵子・福田俊章・藤野美都子
2	11月20日4限	臨床倫理入門②	4分割法の活用	末永恵子・福田俊章・藤野美都子
3	11月20日5限	新薬の臨床試験	治験と臨床倫理	稲野彰洋
4	11月20日6限	医師のプロフェッショナリズム	チーム医療と臨床倫理	尾藤誠司
5	11月27日4限	薬害から学ぶ	薬害被害者のお話を聞く	井上昌和 浅川身奈栄
6	11月27日5限	臨床倫理応用①	出生前診断①	福田俊章・末永恵子・藤野美都子
7	11月27日6限	先端医療と倫理	脳死・臓器移植について考える	村口至
8	12月2日2限	吉田富三がん哲学外来	がん患者の心の診療室	樋野興夫
9	12月4日4限	生殖補助医療	生殖補助医療をめぐる倫理	松本亜樹子
10	12月4日5限	臨床倫理応用②	出生前診断②	福田俊章・末永恵子・藤野美都子
11	12月4日6限	遺伝病と倫理	遺伝カウンセリング	鈴木真一
12	12月9日2限	産業看護師の役割	がん患者の就労支援	清野弘子
13	12月11日4限	臨床倫理応用③	若年性認知症の告知①	福田俊章・末永恵子・藤野美都子
14	12月11日5限	臨床倫理応用④	若年性認知症の告知②	福田俊章・末永恵子・藤野美都子
15	12月11日6限	研究倫理入門	倫理審査委員会の役割	藤野美都子・福田俊章・末永恵子
16	12月16日2限	研究倫理応用	模擬倫理委員会	藤野美都子・福田俊章・末永恵子

臨床倫理担当者

稲野彰洋 福島県立医科大学附属病院治験センター次長
 尾藤誠司 東京医療センター臨床研修科医長
 井上昌和 全国薬害被害者団体連絡協議会
 浅川身奈栄 全国薬害被害者団体連絡協議会
 村口至 坂総合病院名誉院長
 樋野興夫 順天堂大学医学部病理腫瘍学講座教授
 松本亜樹子 NPO法人Fine理事長
 鈴木真一 医学部器甲状腺内分泌学講座教授
 清野弘子 日本通運株式会社福島支店 保健指導員
 末永恵子 医学部人間科学講座(人文社会)講師
 福田俊章 医学部人間科学講座(人文社会)准教授
 藤野美都子 医学部人間科学講座(人文社会)教授

科目・コース(ユニット)名	医療入門1 (プライマリ・ケアと地域医療)【医学4】						
(英語名称)							
担当責任者	葛西 龍樹						
開講年次	4年	開講学期	3期	必修/選択	必修	授業形態	講義

概要/方針等

地域医療の崩壊を防ぎ、地域住民のニーズに沿った質の高いプライマリ・ケアを実践するには、「家庭医療」の原理を十分に学んで、それを実際に地域で展開していくことが必須です。このユニットでは、2017年度から「総合診療専門医」という名称で国を挙げて要請されることになった新しい医療について、系統的に学ぶ機会を提供しています。将来医学医療のどの分野へ進む医学生にとっても、「家庭医療」を理解することは役に立ちます。その理解が無理なく進むように、興味を湧くケースを通して考えたり、映画の一部を用いた教育(シネマデューケーション)、ロールプレイ、グループ・ディスカッションなどを用いた授業を展開します。

学習目標

【一般目標】

将来質の高いプライマリ・ケアを担当するため、もしくはプライマリ・ケアを担当する医師ら協働できるための基本的知識基盤として、「家庭医療」の専門性を理解する。

【行動目標】

- 1 「家庭医療」の定義を説明し、何故日本の地域に「家庭医療」が必要なのかを考えることができる。
- 2 「プライマリ・ケア」の定義を説明できる。
- 3 地域における2種類の医師の協働について説明できる。
- 4 「患者中心の医療の方法」を4つのコンポーネントを用いて説明できる。
- 5 「家族志向ケア」について説明し、ケアのための各種ツールをそれらの特長を理解して使用できる。
- 6 「癒す者」と「癒される者」の関係について考えることができる。
- 7 「アクティブ・リスニング」を用いて病気の経験を探ることができる。
- 8 「家庭医療」でどのようにEBM(evidence-based medicine)を実践するかを説明できる。
- 9 「家庭医療」でどのようにNBM(narrative-based medicine)を実践するかを説明できる。
- 10 「家庭医療」が重視する予防、健康維持・増進と行動変容へのアプローチについて説明できる。
- 11 「学習者中心の臨床教育」を4つのコンポーネントを用いて説明できる。
- 12 へき地における医師の役割と「家庭医療」の有用性について説明できる。
- 13 地域包括ケアにおける医師の役割と「家庭医療」の有用性について説明できる。

テキスト	1 マクウィニー家庭医療学(ばーそん書房) 2 医療大転換-日本のプライマリ・ケア革命-(ちくま新書)
参考書	スタンダード家庭医療マニュアル(永井書店)
評価方法	授業の評価は平常点、レポート、試験その他の方法により総合的に判定される。
その他(メッセージ等)	福島県立医科大学では、県内に広がる新しい地域医療の診療・教育システムを構築するため、平成18年から「家庭医療」を推進しています。これは日本の大学医学部としては最初のことです。従来から日本の大学医学部などにある曖昧な「総合診療」ではなく、定義の明らかな世界標準の「家庭医療」を学んで、それを地域で実践できる機会を医学部の卒前教育・初期研修・後期研修を通じて提供しています。「家庭医療」に興味を持ち、積極的に学んでもらえることを期待しています。

授業計画/担当教員等

【授業計画】

授業計画は、別途周知する。

【担当教員一覧】

葛西 龍樹/教授/地域・家庭医療学講座
菅家 智史/助教/地域・家庭医療学講座
高柳 宏史/助手/地域・家庭医療学講座
北村 俊晴/助手/地域・家庭医療学講座

科目・コース(ユニット)名	緊急被ばく【医学4】						
(英語名称)	Radiation Disaster Medicine						
担当責任者	長谷川 有史						
開講年次	2015年度	開講学期	Ⅱ期	必修／選択	必修	授業形態	講義(一部実習) 平服でかまわない

概要／方針等

放射線災害医療学は、一般医療・救急医療・災害医療に、放射性物質の特性を加味した応用医療である。しかし「身近なリスクに対する防護医学」として体系づけられるものであり、日常のシーンから特殊な災害のシーンまで、重症疾患・外傷を伴うものから漠然とした未来への不安をかかえるものまで、広範な概念と対象を有する新しい学問である。

東日本大震災の経験からは、危機的状況下の医療者には、たとえ不明確な情報・知識・技術であっても、それを用いて直面する想定外の危機を打開する事が求められた。講義から同様の状況を疑似体験することで、今医療者に必要な知識・技術を自ら認知・習得し、結果として主体的に危機を打開する能力を養う、身近なリスクや社会問題に関心を持ち、自らの問題と捉え、社会に真摯に向き合う医療者を育成するのが本コースの最終目標である。

学習目標

一般目標(GIO)

- ・福島県の医療者として、現在進行する放射線災害に対応する能力を習得する
- ・想定外の事象に臨機応変に対応する能力を習得する
- ・未知の事象のもつリスクを客観的に評価する能力を習得する

行動目標(SBOs)

- ・救急医療の診療手順をシミュレーションで実践できる
- ・災害の定義を説明できる
- ・一般災害医療の初動対応を列挙できる
- ・「被ばく」と「汚染」の違いを説明できる
- ・緊急被ばく医療の特殊性を列記できる
- ・放射線災害医療における診療手順の優先順位を選択できる

テキスト

- 参考書
- 1) Radiation Disaster Medicine, Kouichi Tanigawa, Retty Kieth Chhem, Springer
 - 2) 「放射線災害と向き合って」、福島県立医科大学放射線災害医療センター編、ライフサイエンス出版

- 評価方法
- 1) 講義への出席と、その中での問いかけを真摯に自ら考えることを評価の対象とする
 - 2) 授業の評価は平常点、レポート、試験その他の方法により総合的に判定される

その他(メッセージ等)

授業計画／担当教員等

1. 2015年9月10日(木):「放射線災害医療 1」
2. 2015年9月17日(木):「放射線災害医療 2」

科目・コース(ユニット)名	消化器2【医学4】						
(英語名称)	Gastroenterology 2						
担当責任者	見城 明 大木 進司 片倉 響子						
開講年次	4年	開講学期	1期	必修／選択	必修	授業形態	講義・実習

概要／方針等

肝・胆・膵を中心とした消化器病学について、内科、外科、病理の立場から系統講義を行う。

学習目標

一般目標 主な肝・胆・膵疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療、病理診断を学ぶ。

行動目標

- 1 ウイルス性肝炎(急性および慢性)の病因、病態生理を理解し、疾患の分類、診断、治療、病理所見について説明できる。
- 2 劇症肝炎の病因、病態生理を理解し、診断基準、治療法、病理所見について説明できる。
- 3 自己免疫性肝疾患(自己免疫性肝炎、原発性胆汁性肝硬変、原発性硬化性胆管炎)について、症候、診断基準、治療法、病理所見を説明できる。
- 4 脂肪肝、アルコール性肝疾患およびヘモクロマトーシス、ウイルソン病の病態生理を理解し、症候、診断法、治療法、病理所見について説明できる。
- 5 肝硬変の病態生理を理解し、症候、診断法、治療法、病理所見について説明できる。
- 6 原発性、転移性肝がんの病因、分類、診断法、画像所見、治療法、病理所見について説明できる。
- 7 胆道系疾患(胆嚢炎、胆管炎、胆嚢癌、胆管癌)の病態生理を理解し、症候、診断法、画像所見、治療法、病理所見について説明できる。
- 8 急性および慢性膵炎の病態生理を理解し、症候、診断法、画像所見、治療法、病理所見について説明できる。
- 9 膵癌の病態生理を理解し、症候、診断法、画像所見、治療法、病理所見について説明できる。
- 10 肝・胆・膵疾患について、それぞれの疾患の病理組織学的所見を説明できる。

テキスト	特に指定しない。
参考書	
評価方法	出席日数、筆記試験等により総合的に判定される。
その他(メッセージ等)	

授業計画／担当教員等

回数	年月日	曜日	時限	項目	内容(キーワード等)	担当者
0回	27 4 8	水	4(自習)	前年度終了 肝炎(1)	薬剤性肝障害、アルコール性肝障害	高橋 敦史
0回	27 4 8	水	5(自習)	前年度終了 肝炎(2)	ウイルス性急性肝炎、急性肝不全	大平 弘正
0回	27 4 8	水	6(自習)	前年度終了 肝炎(3)	ウイルス性慢性肝炎	大平 弘正
1回	27 4 15	水	4	肝炎(4)	自己免疫性肝疾患	大平 弘正
2回	27 4 15	水	5	肝悪性疾患(内科)	肝細胞癌、胆管細胞癌、転移性肝癌	大平 弘正
3回	27 4 15	水	6	代謝性肝疾患	代謝性肝疾患	大平 弘正
4回	27 4 22	水	4	胆道良性疾患(内科)	胆石症、胆嚢炎、胆管炎	高木 忠之
5回	27 4 22	水	5	膵良性疾患(内科)	膵炎など	高木 忠之
6回	27 4 22	水	6(自習)	前年度終了(胆膵疾患の病理)	胆嚢炎、胆管癌、膵炎、膵癌	田崎 和洋
7回	27 5 13	水	4	肝良性疾患(外科)	良性肝腫瘍など	志村 龍男
8回	27 5 13	水	5	胆膵良性疾患(外科)	胆石症など	志村 龍男
9回	27 5 13	水	6	肝移植・膵移植	肝移植、膵・膵島移植	後藤 満一
10回	27 5 20	水	4	肝悪性疾患(外科1)	肝細胞癌、胆管細胞癌、転移性肝癌	見城 明
11回	27 5 20	水	5	肝悪性疾患(外科2)	肝細胞癌、胆管細胞癌、転移性肝癌	見城 明
12回	27 5 20	水	6	胆道悪性疾患(内科)	胆嚢癌、胆管癌、	高木 忠之
13回	27 5 27	水	4	膵悪性疾患(内科)	膵癌、膵内分泌性腫瘍など	高木 忠之
14回	27 5 27	水	5	胆道悪性疾患(外科1)	胆管癌、胆嚢癌、乳頭部癌	見城 明
15回	27 5 27	水	6	胆道悪性疾患(外科2)	胆管癌、胆嚢癌、乳頭部癌	見城 明
16回	27 6 3	水	4	膵悪性疾患(外科1)	膵癌、膵炎の外科治療	後藤 満一
17回	27 6 3	水	5	膵悪性疾患(外科2)	膵癌、膵炎の外科治療	後藤 満一

0回	27	6	3	水	6	自習/予備日		
18回	27	6	12	金	1	病理実習(肝胆膵)	肝疾患症例の検鏡	田崎 和洋
19回	27	6	12	金	2	病理実習(肝胆膵)	肝疾患症例の検鏡	田崎 和洋
0回	27	6	12	金	3	予備日/病理実習(肝胆膵)	肝疾患症例の検鏡	田崎 和洋
20回	27	6	18	木	1	病理実習(肝胆膵)	胆道系、膵疾患症例の検鏡	田崎 和洋
21回	27	6	18	木	2	病理実習(肝胆膵)	胆道系、膵疾患症例の検鏡	田崎 和洋
0回	27	6	18	木	3	予備日/病理実習(肝胆膵)	胆道系、膵疾患症例の検鏡	田崎 和洋

(担当教員)

教員氏名	職	所属
大平 弘正	主任教授	消化器・リウマチ膠原病内科学講座
後藤 満一	主任教授	臓器再生外科学講座
田崎 和洋	准教授	病理病態診断学講座
志村 龍男	准教授	器官制御外科学講座
見城 明	准教授	臓器再生外科学講座
高木 忠之	講師	消化器・リウマチ膠原病内科学講座
高橋 敦史	学内講師	消化器・リウマチ膠原病内科学講座

科目・コース(ユニット)名	腎・泌尿器2【医学4】						
(英語名称)							
担当責任者	中山 昌明、小島祥敬、林 義満						
開講年次	4年	開講学期	前期	必修／選択	必修	授業形態	講義

概要／方針等

〈外科的分野〉
泌尿器科学は外科学の一分野として発展してきた。しかし膀胱鏡や腎盂鏡などの内視鏡検査や尿流動態検査など泌尿器科独自の検査法もあり、内科診断学的要素のある学問でもある。今学年では泌尿器科腫瘍に対する手術法を中心に、手術に至るまでの検査診断法を各臓器別に学習する。更に病理学実習を通して悪性度や転移の様式についても学ぶ。
また泌尿器科の特徴として「排泄」は避けて通れない。高齢婦人の排泄の問題は生活の質を著しく損なうと同時に、最近問題となっている高齢者の引きこもりの原因となり、ひいては寝たきり老人の問題に発展する。人間の尊厳に深く関わる問題でもあり、婦人泌尿器科の授業を通じて人間存在の根本に関わる医療人としての意識を高めることを期待している。

〈内科的分野〉
前年度に続いて腎疾患の病態と症候を、腎の構造と機能を把握しながら総合的に理解する。

学習目標

〈外科的分野〉
一般目標
腎ならびに副腎・尿管の後腹膜腔臓器および前立腺や精巣等の先天性後天性疾患の正確な病態を把握したうえで、それらの疾患の臨床症状や身体的所見からいくつかの疾患を予測でき、さらに系統立てた検査法で正確な診断ができる能力を身に付ける。そして治療法やその成績を理解して説明できることを目標とする。

- 行動目標
- 1 前立腺肥大による尿道閉塞のメカニズムおよび腎・膀胱に生じる排尿病態を説明できる。
 - 2 腎に発生する腫瘍性病変の分子生物学的所見や疫学的所見、臨床像、診断法、鑑別法、基本的病理組織像ならびに治療法、手術法、予後について説明できる。
 - 3 膀胱や尿道などの尿路上皮に発生する腫瘍性病変の分子生物学的所見や疫学的所見、臨床像、診断法、鑑別疾患、基本的病理組織像ならびに治療法、手術法と下部尿路変更再建術の種類とそれぞれの長所と欠点を列挙できる。
 - 4 前立腺や精巣に発生する腫瘍性病変の分子生物学的所見や疫学的所見、臨床像、診断法、腫瘍マーカーの意義、鑑別診断、基本的病理組織像、ならびに治療法と手術やリンパ節郭清術の適応、予後について説明できる。
 - 5 腹腔鏡手術、ロボット支援手術、その他内視鏡手術など低侵襲手術の理解を深める。

〈内科的分野〉
一般目標
腎系球体・尿管の構造と機能を理解し、それらの異常による病態と症候、基本的な検査・診断方法と治療法を学ぶ。

- 行動目標
- ① 腎疾患を症候による分類や組織学的な分類ができる。
 - ② ネフローゼ症候群の症状、原因疾患と診断・治療法を説明できる。
 - ③ 糸球体腎炎の症状、診断治療法を説明できる。
 - ④ 二次性糸球体疾患の症状、原因疾患と診断・治療法を説明できる。
 - ⑤ 尿管障害の症状、原因疾患と診断・治療法を説明できる。
 - ⑥ 代表的な遺伝性腎疾患を列挙し、その病態を説明できる。

テキスト	特に指定しない。
参考書	
評価方法	第4学年末に行う筆記試験その他により、総合的に判定される。
その他(メッセージ等)	

授業計画／担当教員等

【講義日程】
2015年
〈内科分野〉
04月06日(月) I 糸球体疾患の分類と診断 旭 浩一

04月06日(月) II ネフローゼ症候群① 旭 浩一

04月13日(月) I ネフローゼ症候群② 旭 浩一

04月13日(月) II 糸球体腎炎症候群① 旭 浩一

04月13日(月) III 糸球体腎炎症候群② 旭 浩一

04月20日(月) I 遺伝性腎疾患 林 義満

04月20日(月) II 全身性疾患に伴う腎疾患① 林 義満

04月27日(月) I 全身性疾患に伴う腎疾患② 林 義満

04月27日(月) II 全身性疾患に伴う腎疾患③ 林 義満

05月11日(月) I 尿細管間質性障害① 田中健一

05月11日(月) II 尿細管間質性障害② 田中健一

<外科的分野>

04月06日(月) III 前立腺癌 I 小島祥敬

04月20日(月) III 前立腺癌 II 小島祥敬

04月27日(月) III 前立腺肥大症 I 小島祥敬

05月11日(月) III 前立腺肥大症 II 小島祥敬

05月18日(月) I・II・III 腎泌尿器腫瘍(病理実習) 田中瑞子

05月25日(月) I 尿路上皮癌 小島祥敬

05月25日(月) II 精巣腫瘍 野々村祝夫

05月25日(月) III 腎癌 小原航

【担当教員一覧】

<外科的分野>

小島祥敬 教 授 福島県立医科大学医学部泌尿器科学講座

野々村祝夫 教 授 大阪大学医学部泌尿器科学講座

小原 航 教 授 岩手医科大学医学部泌尿器科学講座

田中瑞子 助 手 福島県立医科大学医学部基礎病理学講座

<内科的分野>

中山昌明 教 授 福島県立医科大学医学部 腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座

旭 浩一 准 教授 福島県立医科大学医学部 腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座 (慢性腎臓病病態治療学講座)

林 義満 講 師 福島県立医科大学医学部 腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座

田中健一 助 教 福島県立医科大学医学部 腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座

科目・コース(ユニット)名	脳・神経2【医学4】						
(英語名称)							
担当責任者	杉浦嘉泰・佐久間潤						
開講年次	4年	開講学期	前期	必修／選択	必修	授業形態	講義

概要／方針等

脳神経に関する臨床のすべての分野を網羅するコースで、その中心となるのは神経内科、脳神経外科および神経病理である。第4学年においては各論を内科的、外科的、さらには病理学的見地から行う。内科学における神経系疾患は、中枢神経系・末梢神経系・筋肉系疾患と非常に広範囲である。神経学を理解するためには、その基礎となるニューロサイエンス・特に神経解剖学・生理学的知識が必須である。この様な基礎的知識を基盤として、神経疾患を学ぶことが重要である。脳神経外科とは、神経学に基づき各種の補助検査法を駆使して、腫瘍、血管障害、外傷、奇形、炎症、痛み等を外科的に治療する臨床科である。偏りのない総合教育を目指し、年に数回は近年の目覚ましい医学の進歩に触れるために、各方面での第一人者を招いて特別講義の形式をとる方針である。

学習目標

一般目標

神経疾患の部位診断を神経解剖学・生理学的理解を基に行う。神経内科学的疾患を神経症候・局在診断を基に学び、成因・病態・診断・治療法を理解することを目標とする。主な脳神経外科的疾患の病因、病態生理、症候の把握に基づく診断と治療法について学ぶ。主な脳腫瘍、脳血管障害、神経変性疾患の病理形態学的特徴を理解し、把握することを目標とする。

行動目標

神経学的診断法を理解し、神経局在診断及び疾患の鑑別診断を挙げることができる。生理検査(脳波・筋電図など)・神経放射線検査(CT・MRI)の意義や所見について把握し、その適応を定めることができる。中枢神経系の解剖学的、生理学的特殊性を説明できる。意識障害の程度を的確に評価することができる。脳の各部分が障害された場合に生じる神経症状について説明できる。頭部レントゲン写真、CT、MRIで、正常解剖を説明できるとともに、各種疾患における異常所見を的確に指摘できる。代表的な脳腫瘍、脳血管障害、神経変性疾患についてその病理形態学的特徴を示すことができる。

テキスト

Merritt's Textbook of Neurology: Merritt Lewis P. Rowland (Lippincott Williams & Wilkins)

Adams and Victor's Principles of Neurology: Maurice Victor (McGraw-Hill)

神経診察: 実際とその意義 Neurological Examination A to Z: 水澤英洋, 宇川義一(中外医学社)

臨床神経内科学: 平山恵造(南山堂)

標準神経病学: 水野美邦, 栗原照幸(医学書院)

ハリソン内科学神経疾患(メディカル・サイエンス・インターナショナル)

標準脳神経外科学: 山浦 晶, 田中隆一, 児玉南海雄(医学書院)

脳神経外科学: 太田富雄(金芳堂)

ベッドサイドの神経の診かた: 田崎義昭, 斉藤佳雄(南山堂)

神経病理を学ぶ人のために(第4版): 平野朝雄, 富安 斉(医学書院)

神経病理形態学ミクロの世界へのガイドブック: 水谷俊雄(新興医学出版社)

Neuropathology A reference text for CNS pathology (2nd edn): Ellison D, Love S,

Chimelli L, Harding BN, Lowe J, Vinters HV (Mosby)

評価方法

出席・講義時の小テスト・第4学年学期末に実施する筆記試験

その他(メッセージ等)

安易に質問と答えを直結させるような勉強ではなく、常に「なぜか」「どうしてか」という物事の考え方や過程を大切にすること。そのためには発生学、神経解剖学、神経生理学などの基礎医学に立ち戻って、物事の本質を理解するように努めなくてはならない。知識は与えられるものではなく、自分で身につけるものである。疑問点は、教員に積極的に質問したり、図書館、インターネットを駆使して調べるなど、前向きな思考を持つこと。

授業計画／担当教員等

【授業計画】

回数 月日 コマ 時間 担当科 講師 講義内容

- | | | | | | | |
|---|---------|---|-------------|------|------|-------------------------|
| 1 | 4月3日(金) | 4 | 13:00~14:00 | 神経内科 | 杉浦嘉泰 | 発作性(機能性)疾患(てんかん・片頭痛など) |
| 2 | 4月3日(金) | 5 | 14:10~15:10 | 神経内科 | 宇川義一 | 神経変性疾患1(運動神経疾患・脊髄小脳変性症) |

3	4月3日(金)	6	15:20~16:20	神経内科	熊谷智広	脳血管障害(虚血性脳血管障害)
4	4月9日(木)	3	11:00~12:00	神経内科	小林俊輔	代謝性神経疾患(先天性代謝異常症など)
5	4月10日(金)	4	13:00~14:00	脳神経外科	佐久間 潤	頭部外傷1
6	4月10日(金)	5	14:10~15:10	脳神経外科	佐久間 潤	頭部外傷2
7	4月10日(金)	6	15:20~16:20	脳神経外科	佐久間 潤	頭部外傷3
8	4月16日(木)	3	11:00~12:00	脳神経外科	佐藤 拓	脳血管障害1
9	4月17日(金)	4	13:00~14:00	神経内科	斎藤直史	神経変性疾患2(痴呆を呈する神経変性疾患)
10	4月17日(金)	5	14:10~15:10	神経内科	平山和美	高次脳機能障害
11	4月17日(金)	6	15:20~16:20	神経内科	熊谷智広	傍腫瘍症候群(中枢神経・末梢神経・神経筋接合部)
12	4月23日(木)	3	11:00~12:00	神経内科	阿部十也	神経機能画像検査
13	4月24日(金)	4	13:00~14:00	脳神経外科	佐藤 拓	脳血管障害2
14	4月24日(金)	5	14:10~15:10	脳神経外科	佐藤 拓	脳血管障害3
15	4月24日(金)	6	15:20~16:20	神経内科	楠 進	末梢神経疾患1(ギランバレー症候群・CIDPなど)
16	4月30日(木)	3	11:00~12:00	脳神経外科	市川優寛	機能的脳神経外科1
17	4月28日(火)	6	15:20~16:20	神経内科	川井 充	神経筋疾患(筋疾患・神経筋接合部疾患)
18	5月1日(金)	4	13:00~14:00	(補講)※授業を行う場合のみ通知する。		
19	5月1日(金)	5	14:10~15:10	(補講) //		
20	5月1日(金)	6	15:20~16:20	(補講) //		
21	5月7日(木)	3	11:00~12:00	脳神経外科	市川優寛	機能的脳神経外科2
22	5月8日(金)	4	13:00~14:00	神経内科	村山繁雄	脱髄・炎症性疾患の病理(多発性硬化症、脳炎など)
23	5月8日(金)	5	14:10~15:10	神経内科	村山繁雄	神経変性疾患の病理(パーキンソン病、ALS、脊髄小脳変性症など)
24	5月8日(金)	6	15:20~16:20	神経内科	中原登志樹	神経変性疾患3(大脳基底核疾患)
25	5月14日(木)	3	11:00~12:00	脳神経外科	織田恵子	血管内治療
26	5月15日(金)	4	13:00~14:00	(補講)※授業を行う場合のみ通知する。		
27	5月15日(金)	5	14:10~15:10	神経内科	後藤 順	Neurogenetics(遺伝カウンセリングなど)
28	5月21日(木)	3	11:00~12:00	脳神経外科	市川優寛	機能的脳神経外科3
29	5月22日(金)	3	11:00~12:00	脳神経外科	岸田悠吾	脳腫瘍4(神経内視鏡手術)
30	5月22日(金)	4	13:00~14:00	脳神経外科	齋藤 清	脳腫瘍1
31	5月22日(金)	5	14:10~15:10	脳神経外科	齋藤 清	脳腫瘍2
32	5月22日(金)	6	15:20~16:20	脳神経外科	齋藤 清	脳腫瘍3
33	5月28日(木)	3	11:00~12:00	神経内科	松田 希	末梢神経疾患2(遺伝性・栄養障害性・圧迫性など)
34	5月29日(金)	3	11:00~12:00	(補講)※授業を行う場合のみ通知する。		
35	5月29日(金)	4	13:00~14:00	脳神経外科	佐久間 潤	小児脳神経外科1
36	5月29日(金)	5	14:10~15:10	脳神経外科	佐久間 潤	小児脳神経外科2
37	5月29日(金)	6	15:20~16:20	脳神経外科	佐久間 潤	脊髄の外科
38	6月4日(木)	3	11:00~12:00	神経内科	榎本博之	中枢神経脱髄性疾患(多発性硬化症・ADEMなど)
39	6月5日(金)	3	11:00~12:00	脳神経外科	市川優寛	末梢神経の外科
40	6月5日(金)	4	13:00~14:00	基礎病理	井村徹也	神経病理総論、その他
41	6月5日(金)	5	14:10~15:10	基礎病理	井村徹也	脳腫瘍、その他
42	6月5日(金)	6	15:20~16:20	基礎病理	井村徹也	

43	6月11日(木)	3	11:00~12:00	神経内科	星 明彦	中枢神経感染症(脳炎・髄膜炎・プリオン病など)
44	6月12日(金)	4	13:00~14:00	基礎病理	井村徹也	神経変性疾患、その他
45	6月12日(金)	5	14:10~15:10	基礎病理	井村徹也	神経変性疾患、その他
46	6月12日(金)	6	15:20~16:20	基礎病理	井村徹也	神経変性疾患、その他

【担当教員一覧】

教員氏名／職／所属／備考

宇川 義一	(教授／神経内科)
杉浦 嘉泰	(准教授／神経内科)
榎本 博之	(講師／神経内科)
星 明彦	(講師／神経内科)
熊谷 智広	(講師／衛生学・予防医学講座)
小林 俊輔	(助教／神経内科)
松田 希	(助教／神経内科)
川井 充	(非常勤講師／神経内科／国立病院機構東埼玉病院)
楠 進	(非常勤講師／神経内科／近畿大学医学部神経内科)
村山 繁雄	(非常勤講師／神経内科／東京都健康長寿医療センター研究所)
後藤 順	(非常勤講師／神経内科／東京大学神経内科)
平山 和美	(非常勤講師／神経内科／山形県立保健医療大学)
斎藤 直史	(非常勤講師／神経内科／大原総合病院)
中原 登志樹	(非常勤講師／神経内科／順天堂大学脳神経内科)
阿部 十也	(非常勤講師／神経内科／東北大学加齢医学研究所機能画像医学研究分野)
齋藤 清	(教授／脳神経外科)
佐久間 潤	(准教授／脳神経外科)
佐藤 拓	(講師／脳神経外科)
市川 優寛	(講師／脳神経外科)
岸田 悠吾	(助教／脳神経外科)
織田 恵子	(助手／脳神経外科)
及川 友好	(非常勤講師／脳神経外科／南相馬市立総合病院副院長)
井村 徹也	(准教授／基礎病理学)

科目・コース(ユニット)名	成長・発達2【医学4】						
(英語名称)							
担当責任者	細矢光亮 北條 洋						
開講年次	4年	開講学期	前期	必修／選択	必修	授業形態	講義・実習

概要／方針等

〈小児血液・悪性腫瘍学〉

小児血液・悪性腫瘍は小児の死亡原因の大きな部分を占めており、小児疾患のなかでも優先して解決していかなければならない大きな問題である。このためには、小児血液・悪性腫瘍の全体像を把握し、成長・発達と関連づけ、成人との相違について十分に理解する。また、臨床実習のための基礎知識の一環として不可欠である。

〈小児腫瘍の病理〉

小児期に発生する腫瘍の病理組織学特徴を学び、小児腫瘍の診断、病態、生物学的特性と腫瘍発生の理解を深め臨床診断や治療に反映させる。小児医療における小児がん登録とGroup Study(大規模多施設研究体制)の役割、意義について理解を深める。

〈小児循環器学〉

小児の循環の特徴を理解し、主な小児循環器疾患について学ぶ。

〈小児循環器外科〉

各種先天性心疾患の外科治療の適応・方法・合併症を中心に小児心臓手術の実際を理解しうるように講義を行う。

〈小児外科〉

小児特有の多岐にわたる疾患について、外科の講義で手術治療を中心に学習することで、小児の解剖・病態生理の理解を深めることを目的とする。小児外科学の代表的疾患につき講義する。

〈性分化異常〉

性染色体および性ホルモンが生殖器の発生・成長に及ぼす影響を学ぶ。

〈小児アレルギー〉

小児アレルギー疾患を学び、アレルギー疾患患児の生活指導を理解する。

学習目標

〈小児血液・悪性腫瘍学〉

一般目標(GIO)

小児の血液・悪性腫瘍の疫学、病因、病態生理症候の把握に基づく診断と治療を学ぶとともに、これらのすべての面に関して、成人との相異について理解する。

行動目標(SBOs)

- ①小児の血液・悪性腫瘍の疫学(発生頻度、発生要因)に関して、具体的に述べることができ、成人との相異について説明できる。
- ②小児の血液・悪性腫瘍の病理組織、分子生物学について、治療方針、予後と関係づけ説明できる。
- ③小児の血液・悪性腫瘍の病態と症候を関連づけて説明し、必要な検査項目を列挙し、診断に結び付けることができる。
- ④小児の血液・悪性腫瘍の診断に基づき、適切な治療法(外科療法、放射線療法、化学療法)を選択し、成人との相異について説明できる。
- ⑤小児の血液・悪性腫瘍に対する造血幹細胞移植療法に関して、移植の種類と適応および合併症を説明できる。
- ⑥小児の血液・悪性腫瘍に対する支持療法に関して具体的に述べるができる。

〈小児腫瘍の病理〉

一般目標(GIO)

小児期に発生する腫瘍の病態と特徴、ならびに組織形態学的変化を理解する。小児医療の発展における小児がん登録とGroup Studyの重要性について学ぶ。

行動目標(SBOs)

- ①小児腫瘍の種類と頻度(特に成人との違い)、初発年齢を概説できる。
- ②小児腫瘍の生物学的態度、成因(先天異常と遺伝子異常)を説明できる。
- ③小児腫瘍の治療とその障害について説明できる。
- ④代表疾患の列挙し、組織形態学的特徴を発表・概説できる。
- ⑤児腫瘍におけるGroup Studyを概説できる。

〈小児循環器学〉

一般目標 (GIO)

小児循環の特徴を理解し、主な小児循環器疾患の病態生理、症候を把握し、診断および治療方針について学ぶ。

行動目標 (SBOs)

- ①小児の循環の特徴を成人との相違点を中心に理解し、説明できる。
- ②心電図の肥大所見を理解し、また心電図所見の経年齢的变化を説明できる。
- ③心疾患を合併することの多い症候群を理解し、その心疾患の内容について説明できる。
- ④先天性心奇形の疫学について、全出生数に対する発生頻度と疾患別頻度を説明できる。
- ⑤主な先天性心奇形について、病態生理を理解し、症候およびレントゲン所見、心電図所見、心エコー所見、造影所見等の検査所見を説明できる。また、治療法について主な手術方法を含めて説明できる。
- ⑥後天性心疾患のうち、感染性心内膜炎、川崎病の冠動脈病変、心筋炎、心筋症について、病態および検査所見、治療方法について説明できる。

〈小児循環器外科〉

一般目標 (GIO)

各種先天性心疾患の病態・症状・内科的治療を理解した上で、外科治療の適応・方法・合併症を学ぶ。

行動目標 (SBOs)

- ①心臓の解剖・構造を理解し、小児心臓手術の際の注意点を説明できる。
- ②人工心臓を使用した小児開心術の概要を説明できる。
- ③各種先天性心疾患の手術適応を説明できる。
- ④各種先天性心疾患の外科治療方針を理解し、説明できる。
- ⑤外科治療の合併症と対策を説明できる。

〈小児外科〉

一般目標 (GIO)

新生児、乳児、幼児外科的疾患の病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。

行動目標 (SBOs)

先天性横隔膜ヘルニア、食道閉塞症、肥厚性幽門狭窄症、先天性十二指腸閉塞症、先天性小腸閉鎖症、Hirschsprung 病、鎖肛、胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症、先天性腹壁欠損先天性肺嚢胞、固形腫瘍につき病態生理、症候、診断を説明できる。

〈性分化異常〉

一般目標 (GIO)

性染色体、および性ホルモンが、人件、特に生殖器の発生・成長に及ぼす影響を理解できる。

行動目標 (SBOs)

- ①性分化の機序を説明できる。
- ②第一次性決定機構の異常と疾患名を列挙し、各疾患における染色体構成、性腺および外性器発育の特徴を説明できる。
- ③男性・女性半陰陽の原因と特徴を説明できる。
- ④性分化異常の治療方針を理解できる。

〈小児アレルギー〉

一般目標 (GIO)

アレルギー疾患の病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。

行動目標 (SBOs)

- ①アレルギー疾患の主要徴候の病態生理を説明できる。
- ②アレルギー疾患の主な検査法を説明できる。
- ③小児に多いアレルギー疾患、特に気管支喘息、食物アレルギー、アナフィラキシーショック、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎の病因、病態、症候を理解し、診断と治療について説明できる。
- ④アレルギー疾患患児の学校生活指導を説明できる。

テキスト

	<p>〈小児血液・悪性腫瘍学〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Nathan and Oskin ' s Hematology of Infancy and childhood ・Principles and Practice of Pediatric Oncology <p>〈小児感染症〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Textbook of Pediatric Infectious Diseases 5th edition SAUNDERS ・Red Book 26th edition American Academy of Pediatrics ・日常診療に役立つ小児感染症マニュアル 東京医学社 <p>〈小児循環器外科〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先天性心疾患手術書(メジカルビュー社)
参考書	

	〈小児外科〉 ・標準小児外科学(医学書院) ・新版小児外科学(診断と治療社) ・臨床小児外科学(医歯薬出版株式会社)
評価方法	出席日数及び筆記試験により総合的に判定される。
その他(メッセージ等)	学習上の留意事項 1. 講義で全ての項目をカバーすることは時間的に不可能であるので、不足分は自学自習を原則とする。 2. 授業は単に知識を得ることが目的ではなく、主体的な施行により基本的知識・技術の意義と論理的思考法を習得することを原則とする。 3. 心疾患で苦しむ子供たちを救うための小児心臓手術の実際に触れて理解してほしい。授業中・後の質問をおおいに歓迎する。

授業計画／担当教員等 【授業計画】 1回・4月 6日(月)4時限／性分化／小島祥敬 2回・4月 6日(月)5時限／小児感染症Ⅰ／細矢光亮 3回・4月 6日(月)6時限／小児感染症Ⅱ／細矢光亮 4回・4月13日(月)4時限／小児悪性腫瘍の病態と特徴／北條 洋 5回・4月13日(月)5時限／実習(症例観察)Ⅰ／北條 洋 6回・4月13日(月)6時限／実習(症例観察)Ⅱ／北條 洋 7回・4月20日(月)4時限／実習(症例観察)Ⅲ／北條 洋 8回・4月20日(月)5時限／症例観察のまとめ／北條 洋 9回・4月20日(月)6時限／小児循環器外科Ⅰ／若松大樹 10回・4月27日(月)4時限／小児循環器外科Ⅱ／若松大樹 11回・4月27日(月)5時限／小児アレルギー／川崎幸彦 12回・4月27日(月)6時限／小児外科Ⅰ／山下方俊 13回・5月11日(月)4時限／染色体異常／佐藤真紀 14回・5月11日(月)5時限／小児心身症／鈴木雄一 15回・5月11日(月)6時限／小児外科Ⅱ／山下方俊 16回・5月18日(月)4時限／先天性心疾患総論／桃井伸緒 17回・5月18日(月)5時限／先天性心疾患各論Ⅰ／桃井伸緒 18回・5月18日(月)6時限／先天性心疾患各論Ⅱ、後天性心疾患／桃井伸緒 19回・5月25日(月)4時限／小児血液・悪性腫瘍の総論／佐野秀樹 20回・5月25日(月)5時限／白血病、血液疾患／佐野秀樹 21回・5月25日(月)6時限／固型腫瘍／佐野秀樹 【担当教員一覧】 小島 祥敬・教 教・泌尿器科学講座(性分化異常) 細矢 光亮・教 教・小児科学講座(小児感染症学) 北條 洋・教 授・病理病態診断学講座(小児腫瘍の病理) 桃井 伸緒・教 授・周産期・小児地域医療支援講座(小児循環器学) 川崎 幸彦・准教授・小児科学講座(小児アレルギー) 佐野 秀樹・准教授・小児腫瘍内科(小児血液・悪性腫瘍学) 若松 大樹・講 師・心臓血管外科学講座(小児循環器外科) 佐藤 真紀・講 師・総合周産期母子医療センター(新生児学) 山下 方俊・助 教・臓器再生外科学講座(小児外科学) 鈴木 雄一・助 手・小児科学講座(小児神経学)

科目・コース(ユニット)名	生殖・周産期【医学4】						
(英語名称)	Obstetrics and Gynecology						
担当責任者	藤森敬也						
開講年次	4年	開講学期	1・2期	必修／選択	必修	授業形態	講義・実習

概要／方針等

産科婦人科学は医学の根源である生命の発生、およびこれに深いかわりをもつ生殖器官の病理に関する臨床医学である。現代では、生殖に直接かわりのある産科学と女性性器の疾患を取り扱う婦人科学に大別され、また別記に示すように多くの専門分野に細分されているが、これらを生殖医学という領域で総合的な視野で捉えることが必要である。しかし、これを理解するには基礎的知識に限定しても発生、遺伝、解剖、生理、病理、保健、予防衛生学と幅の広い領域に及び、さらに、その臨床応用の知識に至っては、正に日進月歩、且つ膨大で、これらを短時間で知りうることはきわめて困難である。したがって授業方針としては母子双方の生命の尊厳と生命の誕生の原理を理解し、現時点での医学レベルを体得してもらうことに重点をおく。

学習目標

一般目標

- 1 正常妊娠、正常分娩の機転について理解し、異常妊娠、異常分娩の病因、病態生理、治療法を学習する。
- 2 骨盤内臓器の発生、局所解剖および間脳視床下部—下垂体—卵巣—子宮の内分泌学的構造、機能を理解し、女性生殖器系の疾患の病態生理および不妊症を主とした生殖内分泌疾患を理解する。

行動目標

- 1 妊娠の成立機序を時間経過とともに説明できる。
- 2 分娩の3要素を踏まえて、正常分娩経過を説明できる。
- 3 正常妊娠、分娩の診断に必要な超音波、胎児心拍数モニタリングの所見を評価できる。
- 4 以上の正常経過を把握した上で、異常妊娠の病態生理を理解し、治療の基本方針について説明できる。
- 5 妊婦には内科的、外科的疾患が合併しやすいが、合併症の基礎知識を把握した上で合併症が妊娠に与える影響および妊娠が合併症に与える影響を説明でき、妊娠により変化する母体の状態が説明でき、妊娠、分娩、産褥時管理上の留意点を挙げることができる。
- 6 出生前胎児診断の方法論を理解し、子宮内胎児治療などの最新の知識を知る。また、倫理上の問題点を説明できる。
- 7 小骨盤内臓器の発生を理解し、女性生殖器奇形、配偶子形成について説明できる。
- 8 間脳—視床下部—下垂体—卵巣—子宮系の内分泌学的なaxisとその制御機構を説明できる。
- 9 良性および悪性婦人科腫瘍の疫学、診断法、治療法の基本が説明できる。
- 10 CT、MRIを主とした婦人科画像診断ができる。
- 11 女性の急性腹症の診断、治療について説明できる。
- 12 不妊症の診断、治療および最近の生殖補助医療技術について説明できる。
- 13 更年期婦人の内分泌学的特徴とホルモン補充療法の意義について説明できる。

テキスト 特に指定しない。

参考書

1. 病気がみえる vol. 9 婦人科・乳腺外科 第3版 MEDIC MEDIA 3,200円
2. 病気がみえる vol. 10 産科 第3版 MEDIC MEDIA 3,500円
3. 池ノ上克ら:エッセンシャル産婦人科学 第3版 医歯薬出版株式会社 9,660円
4. Cunningham, MacDonard, Gant et al: Williams Obstetrics, 24 Edition. McGraw Hill 2014
5. Berek & Novak's Gynecology, 14th Edition, Lippincott Williams & Wilkins
6. Creasy and Resnik: Maternal-Fetal Medicine, 7th Edition W. B. Saunders.
7. 日本産婦人科学会編:産婦人科研修の必修知識、2013 日本産婦人科学会 10,000円

評価方法

授業の評価は、以下の試験その他の方法により総合的に判定される。

第4学年次後期末(進級試験、○×問題200題(90%以上合格)による)

第5学年次病院実習(口頭試問・レポートによる)

第6学年次後期末(卒業試験、多肢選択式試験(60%以上合格)による)

その他(メッセージ等)

1. 1時限の講義で解説される内容は膨大であり、各自知識の整理は自主的に行う必要がある。
2. 講義はプリントおよびスライドを主に用いて行われるが、不明な点は講義の中での質問などにより明らかにしておく必要がある。
3. 次年度臨床実習で行われるセミナー形式の講義は講師、時間の制約により産科婦人科学全般を網羅することは不可能であり、基礎知識の習得は系統講義が主になることを念頭におく。
4. 講義への積極的な出席を期待する。

授業計画／担当教員等

回数	月日	曜日	時限	項目内容(キーワード等)	担当者
1	4/7	火	1	婦人科学 女性器の構造と性機能	藤森敬也
2	4/7	火	2	婦人科学 性分化	藤森敬也
3	4/7	火	3	性器形態の異常	藤森敬也
4	4/14	火	1	婦人科学 月経の異常1	藤森敬也
5	4/14	火	2	婦人科学 月経の異常2	藤森敬也
6	4/14	火	3	婦人科学 女性の加齢に伴う変化・骨盤内臓器脱	藤森敬也
7	4/21	火	1	婦人科学 性器の炎症・STD	藤森敬也
8	4/21	火	2	婦人科学 不妊症・避妊法1	藤森敬也
9	4/21	火	3	婦人科学 不妊症・避妊法2	藤森敬也
10	4/28	火	1	婦人科学 子宮内膜症1	藤森敬也
11	4/28	火	2	婦人科学 子宮内膜症2	藤森敬也
12	4/28	火	3	婦人科学 子宮筋腫・子宮腺筋症	藤森敬也
13	5/12	火	1	婦人科学 子宮頸癌1	藤森敬也
14	5/12	火	2	婦人科学 子宮頸癌2	藤森敬也
15	5/12	火	3	婦人科学 子宮体癌	藤森敬也
16	5/19	火	1	婦人科学 卵巣腫瘍1	藤森敬也
17	5/19	火	2	婦人科学 卵巣腫瘍2	藤森敬也
18	5/19	火	3	婦人科学 絨毛性疾患	藤森敬也
19	5/26	火	1	婦人科学 外陰・膣・卵管疾患	藤森敬也
20	5/26	火	2	婦人科学 婦人科救急疾患(急性腹症)	藤森敬也
21	5/26	火	3	産科学 正常妊娠(妊娠の成立)	藤森敬也
22	6/2	火	1	産科学 正常妊娠(母体の生理的变化と管理)	藤森敬也
23	6/2	火	2	産科学 正常分娩(分娩の3要素)	藤森敬也
24	6/2	火	3	産科学 正常分娩(分娩介助と緊急時の対応)	藤森敬也
25	6/9	火	1	産科学 異常分娩(分娩3要素の異常)	藤森敬也
26	6/9	火	2	産科学 胎児well-being 評価(CTG・BPS)1	藤森敬也
27	6/9	火	3	産科学 胎児well-being 評価(CTG・BPS)2	藤森敬也
28	6/16	火	1	産科学 流産・早産	藤森敬也
29	6/16	火	2	産科学 産科領域における画像診断1	藤森敬也
30	6/16	火	3	産科学 産科領域における画像診断2	藤森敬也
31	6/30	火	1	産科学 産科学妊娠高血圧症候群	藤森敬也
32	6/30	火	2	産科学 常位胎盤早期剥離	藤森敬也
33	6/30	火	3	産科学 前置胎盤	藤森敬也
34	7/7	火	1	婦人科学 女性生殖器の病理Ⅰ	橋本優子
35	7/7	火	2	婦人科学 女性生殖器の病理Ⅰ	橋本優子
36	7/7	火	3	婦人科学 女性生殖器の病理Ⅰ	橋本優子
37	7/14	火	1	婦人科学 女性生殖器の病理Ⅱ	橋本優子
38	7/14	火	2	婦人科学 女性生殖器の病理Ⅱ	橋本優子
39	7/14	火	3	婦人科学 女性生殖器の病理Ⅱ	橋本優子
40	7/21	火	1	婦人科学 女性生殖器の病理Ⅲ	橋本優子
41	7/21	火	2	婦人科学 女性生殖器の病理Ⅲ	橋本優子
42	7/21	火	3	婦人科学 女性生殖器の病理Ⅲ	橋本優子
43	9/8	火	1	産科学 多胎妊娠	藤森敬也
44	9/8	火	2	産科学 子宮内胎児発育遅延	藤森敬也
45	9/8	火	3	産科学 羊水量の異常	藤森敬也
46	9/15	火	1	産科学 正常・異常産褥、産科手術	藤森敬也
47	9/15	火	2	産科学 周産期感染症(TORCHの症候群)1	藤森敬也
48	9/15	火	3	産科学 周産期感染症(TORCHの症候群)2	藤森敬也
49	9/29	火	1	産科学 血液型不適合妊娠	藤森敬也
50	9/29	火	2	産科学 産科DIC・産科ショック	藤森敬也
51	9/29	火	3	産科学 新生児の異常	今村 孝
52	10/6	火	1	産科学 合併症妊娠(妊娠糖尿病)	藤森敬也
53	10/6	火	2	産科学 合併症妊娠(その他)	藤森敬也
54	10/6	火	3	婦人科学 生殖補助医療	星和彦

当教員一覧

教員氏名 職 所属 備考

藤森敬也	教授	福島県立医科大学医学部産科婦人科
橋本優子	教授	福島県立医科大学医学部病理病態診断学
小宮ひろみ	准教授	福島県立医科大学医学部産科婦人科 性差医療センター
渡辺尚史	准教授	福島県立医科大学医学部産科婦人科
野村泰久	講師	福島県立医科大学医学部産科婦人科 総合周産期センター
菅沼亮太	講師	福島県立医科大学医学部産科婦人科
添田 周	講師	福島県立医科大学医学部産科婦人科
今村 孝	講師	福島県立医科大学附属病院・総合周産期母子医療センター(新生児部門)
星 和彦	院長	スズキ記念病院

科目・コース(ユニット)名	運動器・リハビリテーション【医学4】						
(英語名称)							
担当責任者	紺野慎一 田崎和洋						
開講年次	4年	開講学期	2期	必修／選択	必修	授業形態	講義

概要／方針等

整形外科は、運動器外科、機能外科とも呼ばれ、四肢と体幹の運動機能を追求する学問である。すなわち、疾病や外傷によって障害された運動機能を再建したり、疼痛を改善させたりすることで、患者の生活の質を回復あるいは向上させることがその目的である。整形外科学は、系統講義と臨床実習からなる。系統講義では、四肢と体幹の機能障害をもたらす病態を把握し、診断および診療に必要な基礎知識を修得する。

学習目標

一般目標

運動器疾患の診断と治療の基本的知識を修得するために、運動器である四肢と体幹の構造と機能を理解し、運動器疾患の病因、病態生理、症候学について学ぶ。

行動目標

1. 脊椎・脊髄と四肢関節の構造と機能を説明できる。
2. 脊椎・脊髄疾患の病因、病態生理を説明できる。
3. 脊椎・脊髄疾患の症候に基づく、診断を列挙することができる。
4. 四肢関節疾患の病因、病態生理を説明できる。
5. 四肢関節疾患の症候に基づく、診断を列挙することができる。
6. 整形外科で扱う救急外傷の種類と特徴を説明できる。
7. 上下肢のスポーツ傷害とその受傷機転および予防法を説明できる。
8. 小児に特有の整形外科疾患の種類を列挙することができる。
9. 見逃してはいけない悪性骨・軟部腫瘍の症候と初期治療を説明できる。
10. 整形外科で行われるプライマリケアについて述べるができる。
11. 疼痛の分類とその分子生物学的機序について説明できる。
12. 慢性疼痛性疾患と精神神経疾患との関わりについて、述べるができる。
13. リハビリテーションの理論とその方法について、説明できる。

テキスト

特に指定しない

参考書

書名／著者・編者／出版社／出版年

標準整形外科学 第12版／松野丈夫他総編／医学書院／2014

図解四肢と脊椎の診かた／Hoppenfeld S(著)・首藤 貴(訳)／医歯薬出版／1984

整形外科医のための神経学図説-脊髄・神経根障害レベルのみかた, おぼえかた／Hoppenfeld S(著)・津山直一(訳)／南江堂／2005

整形外科プライマリハンドブック 改訂第2版／片田重彦・石黒 隆著／南江堂／2004

NEW MOOK 整形外科シリーズ 1-17／越智隆弘・菊地臣一編集／金原出版／1997-2005

整形外科外来シリーズ／越智隆弘・菊地臣一・龍 順之助編集／メジカルビュー社／1997-2000

運動器の痛みプライマリケアシリーズ／菊地臣一編集／南江堂／2009-2012

評価方法

第4学年次後期末に筆記試験を実施し、総合的に判定する。

その他(メッセージ等)

学習上の留意事項

1. 学生は、教えてもらうという態度ではなく、自ら学ぶ姿勢で臨床実習に臨んでもらいたい。何事にも疑問を持って、担当教員に質問をぶつけてもらいたい。
2. 解剖学は、整形外科学の理解のために必須であるので、講義前に解剖学の復習が必要である。
3. 医学用語は定義を暗記ではなく、理解することが重要である。
4. 出席の確認と、前回の講義内容を整理する目的で、講義開始前にミニテストを実施する。遅刻者には、ミニテストの用紙を配布しない。講義開始前に着席していること。ミニテストの用紙は講義終了後に回収する。
5. 講義終了時点で、出席日数が規程の日数に達しなかった場悪性には、評価試験の受験資格を与えない。

授業計画/担当教員等

授業計画

回数	月日	曜日	時限	項目	key word	担当
1	6/29	月	IV	腰痛のEBM	非特異的腰痛・神経障害性疼痛	関口美穂
2			V	頸胸椎	脊髄症	二階堂琢也
3			VI	腰椎	腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄	紺野慎一
4	7/6	月	IV	痛みのサイエンス	疼痛の生理学・分子生物学	半場道子
5			V	スポーツ傷害	離断性骨軟骨炎・膝靭帯損傷・半月板損傷	大歳憲一
6			VI	感染症	化膿性関節炎・脊椎炎	沼崎広法
7	7/13	月	IV	股関節	変形性股関節症	青田恵郎
8			V	足	外反母趾・足関節捻挫	大内一夫
9			VI	膝関節	変形性膝関節症	小林秀男
10	9/7	月	IV	手/末梢神経	切断・再接着/手根管症候群	江尻荘一
11			V	骨粗鬆症	骨代謝/骨代謝・骨脆弱性骨折	大谷晃司
12			VI	脊椎外傷	脊椎骨折・脊髄損傷	矢吹省司
13	9/14	月	IV	小児整形外科/骨系統疾患	先天性股関節脱臼/骨形成不全症	武田浩一郎
14			V	関節炎	関節リウマチ・痛風・偽痛風	茂呂貴知
15			VI	リエゾン精神医学	身体表現性障害・ストレス	佐藤勝彦
16	9/24	木	V	Primary care II	Primary care	石黒 隆
17	9/28	月	IV	骨腫瘍	骨肉腫	山田 仁
18			V	病理実習	骨腫瘍の病理診断	田崎和洋
19			VI	肩関節	肩腱板断裂・反復性肩関節脱臼	穴戸裕章
20	10/5	月	IV	リハビリテーション	理学療法・作業療法	大井直往
21			V	整形外科救急・外傷	四肢開放骨折・区画症候群	川上亮一
22			VI	骨盤骨折	骨盤寛骨臼骨折	伊藤雅之
23	10/8	木	V	Primary care I	Primary care	片田重彦
24	10/19	月	IV	脊椎・脊髄腫瘍	神経鞘腫、転移性脊椎腫瘍	渡邊和之
25			V	軟部腫瘍	軟部肉腫	箱崎道之

担当教員

教員名/職 名/所 属

紺野慎一/主任(教授)/福島県立医科大学医学部整形外科学講座
 矢吹省司/教授/福島県立医科大学医学部整形外科学講座
 田崎和洋/准教授/福島県立医科大学附属病院病理部
 青田恵郎/准教授/福島県立医科大学附属病院地域連携部
 大谷晃司/准教授/福島県立医科大学医療人育成・支援センター
 穴戸裕章/准教授/福島県立医科大学医学部整形外科学講座
 大井直往/准教授/福島県立医科大学医学部整形外科学講座
 関口美穂/准教授/福島県立医科大学実験動物研究施設
 江尻荘一/准教授/福島県立医科大学医学部整形外科学講座
 大内一夫/講師/福島県立医科大学附属病院リハビリテーションセンター
 沼崎広法/講師/福島県立医科大学医学部整形外科学講座
 山田 仁/講師/福島県立医科大学医学部整形外科学講座
 二階堂琢也/講師/福島県立医科大学医学部整形外科学講座
 川上亮一/学内講師/福島県立医科大学医学部整形外科学講座
 大歳憲一/学内講師/福島県立医科大学医学部整形外科学講座
 小林秀男/助教/福島県立医科大学医学部整形外科学講座
 箱崎道之/准教授/福島県立医科大学医学部整形外科学講座
 渡邊和之/助教/福島県立医科大学医学部整形外科学講座
 武田浩一郎/併任講師/福島県総合療育センター
 半場道子/客員講師/福島県立医科大学医学部整形外科学講座
 石黒 隆/客員講師/いしぐる整形外科
 片田重彦/客員講師/医療法人かたがた整形外科
 佐藤勝彦/非常勤講師/一般財団法人大原総合病院

科目・コース(ユニット)名	皮膚・形成【医学4】						
(英語名称)							
担当責任者	山本 俊幸 上田 和毅						
開講年次	4年	開講学期	1・2期	必修／選択	必修	授業形態	講義

概要／方針等

〈皮膚科学分野〉

皮膚科学は年々細分化されてきているものの、皮膚に表現される症状のすべてを取り扱う。そのため、皮膚病変を理解するためには、皮膚の解剖学、生理学、生化学、免疫・アレルギー学、分子生物学などの基礎医学のみならず、内科学的知識や外科学的手技を駆使した多方面からのアプローチが要求される。

4年生次では、皮膚科学の基本的事項について学習する。発疹学の基礎を学び、その発疹を形成している病理組織学的な変化についても理解を深める。臨床例については理解を容易にするために、多数のスライドを中心にして講義を行う。皮膚疾患は非常に多数あるので、重要な疾患にしばらざるを得ないが、授業でとり上げられなかった疾患についても、自己学習が義務づけられていることを自覚して欲しい。

皮膚科は病名が多く、難しい漢字も多いので勉強ににくいという声がよく聞かれるが、実は皮膚のトラブルを経験したことがない人はいないほど、皮膚科学はわれわれの身近にある学問なのである。皮膚科学に対するアレルギーを取り除き、講義を通じて皮膚科学の面白さを是非実感してもらいたい。

〈形成外科学分野〉

形成外科は、先天性であるか後天性であるかを問わず、外貌に影響を与え得る組織が損なわれた場合、形態的にも機能的にもこれを元の状態に復させようとする外科である。

歴史的には、かつて戦傷外科とも称され、戦闘によって生じた傷をいやすことをその主な仕事としていたこともある。実際、戦争を経るごとに形成外科は新しい技術を加え、進歩してきたものであり、古くは捕虜や犯罪人に対する古代インドの「鼻そぎの刑」の受難者の治療に始まり、近くは第二次世界大戦中の戦傷者の治療まで、人間の歴史の陰の部分に関わりつづけた医学である。先天的な体表奇形に対しても、Pare の有名な唇裂手術に見られるように、神の不在を補うべく患者の受難に対して果敢な外科手術を試みてきた。

わが国において、形成外科が独立した診療科として人々に認知されたのは、おそらく原爆被災者のやけどの治療に戦後アメリカから形成外科医が派遣され、治療を行ったのが最初ではないかと思われる。昭和32年には東京大学に初めての形成外科診療班が発足し、日本人専門医による本格的な形成外科診療が開始された。その後、幸いにして、日本は戦争のない平和な時代をすごしてきたが、以来60年近く、形成外科は今度は戦争とは無関係に進歩発展を続けてきた。その理由としては、先天奇形や外傷以外に外科手術や内科的疾患に伴う組織欠損や変形の治療にも領域を広げてきたこと、技術的進歩がこれまであきらめられてきた状態の改善を可能にしたことなどが挙げられる。

形成外科は、臓器別に名を冠せられた科とは異なり、組織の種類に縛られず、非常に多くの疾患を扱う。他科との関連も複雑で、また現在も扱う領域は広がっているため、概念をつかみにくい。そのため、授業では、歴史的な背景を含めて「形成外科とは何か」という基本的なことの説明から始め、臨床例に及んで、具体的にいかなる疾患を扱っているのか、またどのように扱っているのかを理解してもらうようにする。将来、どの科を専攻しても役に立つと思われる形成外科の知識を伝えることを主眼とした授業を行いたいと考える。

学習目標

〈皮膚科学分野〉

一般目標 1 皮膚疾患の概念を理解し、確定診断を行うのに必要な知識を身に付ける。

2 皮膚の正常構造、皮膚疾患の病理所見を読み取ることにより、皮膚疾患の発生機序を理解する。

行動目標 1 原発疹、続発疹の定義に従って皮膚所見を正確に取ることができる。

2 皮膚所見から考えられる診断、および鑑別すべき疾患が列挙できる。

3 鑑別に必要な検査法が列挙できる。

4 初診の際に迅速に施行可能な皮膚描記症、真菌検査、Wood 灯、ウイルス検査、Tzanck 試験などが実施できる。

5 光線過敏性試験、パッチテスト、皮内テスト、スクラッチテスト、発汗テスト、皮膚生検などの検査法が理解できる。

6 皮膚の正常構造が説明できる。

7 皮膚病理所見が説明できる。

〈形成外科学分野〉

一般目標 1 形成外科の基本手技とその理論的背景を理解する。

2 形成外科の対象疾患を理解する

行動目標 1 皮膚、脂肪、骨、軟骨、筋肉、筋膜の移植形式と生着機序を説明できる。

2 皮弁の分類ができる

3 顔面骨折の分類ができる

4 慢性潰瘍の成因を説明できる

5 形成外科で扱う先天異常を列挙できる

テキスト	標準形成外科(医学書院)
参考書	池田重雄他「標準皮膚科学」医学書院 上野賢一他「小皮膚科学」金芳堂 飯塚一 他「New 皮膚科学」南江堂 小川秀興他「TEXT 皮膚科学」南山堂 清水 宏「あたらしい皮膚科学」中山書店 山田 瑞穂「皮膚科学考え方学び方」金原出版 図説形成外科学講座(1~8巻、メジカルビュー社) Plastic Surgery (Vol. 1~8, Mathes 編, Saunders) 「標準形成外科」(第6版)医学書院 「TEXT形成外科」(第4版)南山堂
評価方法	授業の評価は平常点、レポート、試験その他の方法により総合的に判定される。
その他(メッセージ等)	授業中に提示する症例写真は、幾多の症例から選び抜かれたものである。多くの情報を含んでおり、また再度見る機会がない貴重なものと思っ見て欲しい。

授業計画/担当教員等

<皮膚科学分野>

回数	月	日	曜日	時限	項目・内容	担当者
1	4	9	木	IV	皮膚科総論	山本俊幸
2	4	9	木	V	湿疹・皮膚炎	花見由華
3	4	16	木	IV	紅斑症・紫斑	山本俊幸
4	4	16	木	V	皮膚感染症	竹之下秀雄
5	4	23	木	IV	皮膚疾患検査法	加藤保信
6	4	30	木	IV	皮膚疾患治療法	三浦貴子
7	5	7	木	IV	角化症・膿胞症	佐藤正隆
8	5	14	木	IV	水疱症	佐藤正隆
9	5	21	木	IV	皮膚腫瘍・リンパ腫	大塚幹夫
10	5	28	木	IV	全身と皮膚、粘膜	菊池信之
11	6	4	木	IV	皮膚科実地医療	岸本和裕
12	6	11	木	IV	悪性黒色腫・熱傷	大塚幹夫
13	6	18	木	IV	膠原病・血管炎	山本俊幸

<形成外科学分野>

回数	月	日	曜日	時限	項目	内容	担当者
1	7	8	水	V	総論1	歴史・診断学	上田和毅(教授)
2	7	15	水	V	総論2	基本手技1	上田和毅
3	7	22	水	V	各論1	腫瘍	大河内真之(准教授)
4	9	9	水	V	騒乱3	基本手技II	上田和毅
5	9	16	水	V	各論2	瘢痕・ケロイド	望月靖史(講師)
6	9	30	水	V	各論3	先天異常I	上田和毅
7	9	30	水	VI	各論4	先天異常II	上田和毅
8	10	7	水	V	各論5	外傷I	斎藤昌美(講師)
9	10	7	水	VI	各論6	外傷II	斎藤昌美
10	10	14	水	V	各論8	潰瘍I	大河内真之
11	10	14	水	VI	各論9	潰瘍II	大河内真之
12	10	21	水	V	各論9	顔面神経麻痺・リンパ浮腫ほか	上田和毅

<担当教員>

教授	山本俊幸	(皮膚科)
准教授	大塚幹夫	(皮膚科)
講師	佐藤正隆	(皮膚科)

助教	加藤保信	(皮膚科)
助手	三浦貴子	(皮膚科)
助教	花見由華	(皮膚科)
助手	菊池信之	(皮膚科)
教授	上田和毅	(形成外科)
准教授	大河内真之	(形成外科)
講師	齋藤昌美	(形成外科)
講師	望月靖史	(形成外科)

科目・コース(ユニット)名	視覚【医学4】						
(英語名称)	VISUAL SCIENCE course						
担当責任者	石龍 鉄樹						
開講年次	4年	開講学期	1・2期	必修／選択	必修	授業形態	講義

概要／方針等

眼科学は、いわゆる総論としての局所解剖、眼生理/機能学、診断の手法(診断学)、問診の方法、および各論としての眼科疾患における組織病態、診断・治療からなる。一般内科や外科とは異なり、問診・視診が診断の根拠となることが多いのが特徴である。また、眼は全身疾患の窓口を果たすことが多いこと、眼科領域の倫理学が生死とは異なり、失明に関わる問題が断然多いことなども重要なポイントとして講義する。

眼科学の講義回数は限られるので、上記の要点を概説しながら、エッセンスとなる知識が得られるように配慮したい。

学習目標

一般目標(GIO) : 眼部の解剖と眼機能を理解し、主な眼疾患(機能・器質的疾患)の病態生理、診断および治療学を学ぶ

行動目標(SBOs):

- ①眼生理・光学の基礎、および屈折・調節の概念と異常を説明できる
- ②視野、光覚、色覚、瞳孔反応の概念と異常を説明できる
- ③眼科診断に必須の細隙灯顕微鏡検査、検眼鏡検査の要領を説明できる
- ④緊急疾患、感染性疾患の愁訴と病状、治療を説明できる
- ⑤発症頻度の高い眼疾患(緊急性を有する角膜炎、ぶどう膜炎、網膜炎、視神経疾患、および白内障、緑内障、弱視、斜視など)の病態と治療法を説明できる
- ⑥眼部外傷に対する処置の方法を説明できる
- ⑦眼底に異常をきたす主な全身疾患と眼底所見について説明できる

テキスト

現代の眼科学(金原出版)第12版
Clinical Ophthalmology 5th ed. Jack J. Kanski; Butterworth Heinemann
(Clinical Ophthalmologyは欧文図書ではあるが、図譜が多く初心者にもわかりやすい。他科においても欠かせない参考書となる場合が多い)
いずれの図書も、豊富なカラー眼底図譜が掲載されているので、将来も含めて座右の書として一冊は求められたい。

評価方法 平常点、レポート、試験、その他の方法により、総合的に判定される

その他(メッセージ等) 学習上の留意点は、内科学・外科学に準じる。カルテの閲覧方法、病歴聴取、検査法、手術手技など、眼科に固有な項目に重点を置いて学習して欲しい。

授業計画／担当教員等

平成27年度 医学部4年生講義予定

H27.4.9 石龍鉄樹: 解剖と生理①「眼はどのようにして世界を映しているか」

H27.4.16 森 隆史: 救急疾患「これだけは知っておきたい眼科救急」

H27.4.23 石龍鉄樹: 解剖と生理②「眼はものを言うか」

H27.4.30 菅野幸紀: 白内障「見る世界を変える眼内レンズ」

H27.5.7 大口泰治: 糖尿病網膜症「失明原因僅差で第二位」

H27.5.14 小島 彰: 網膜剥離など「見えない硝子体が引き起こす網膜疾患」

H27.5.21 石龍鉄樹: 網膜血管性病変「眼循環の不思議」

H27.5.28 板垣可奈子: 加齢黄斑変性・黄斑疾患「黄斑は目の急所」

H27.6.4 金子久俊: 眼感染症「基礎と臨床の融合」

H27.6.11 新澤 恵: 角膜移植の最前線～パーツ移植と培養移植

【I期試験:試験は行ないません】

H27.7. 2 佐柄英人: 緑内障「失明原因第一位」11:00～

H27.7. 3 【金曜日】 ※14:10～、15:20～

丸子一朗: 眼科の先端医療「検査と治療」

H27.7. 9 古田 歩: 神経眼科「視覚と脳-目を通して脳の働きをみる」11:00～

H27.7.16 藤原聡之: 網膜「眼底検査はプロの技」9:50～、11:00～

H27.7.23 古田 実: ぶどう膜炎「日本の3大ぶどう膜炎はなに？」

H27.7.23 森 隆史: 斜視・弱視「遠視はいい目？」

【夏季休業】

- H27.9.10 塩谷 浩:「コンタクトレンズによる屈折矯正 ～ 一生快適な生活を送るために～」
 H27.9.10 森 隆史: 小児眼科「視診が大事」
 H27.9.17 古田 実: 眼瞼・眼窩疾患「視機能をサポートする組織の疾患」
 H27.9.17 古田 実: 眼腫瘍「眼部3大悪性腫瘍と仮面症候群」
 H27.9.24 伊勢重之: 神経眼科「目からわかる脳の病気」
 H27.10.1 伊藤 健: 角膜結膜/ドライアイ「涙がとりまく眼表面」
 H27.10.8 小島 彰: 全身疾患と眼「眼でこんなことがわかるんだ！」
 H27.10.15 ※8時40分～
 石龍鉄樹: 眼科疾患のまとめ「実際の問題を解いてみよう」

担当教員一覧

教員氏名	職	所属
石龍鉄樹	教授	福島県立医科大学医学部眼科
古田 実	准教授	福島県立医科大学医学部眼科
森 隆史	講師	福島県立医科大学医学部眼科
板垣可奈子	助手	福島県立医科大学医学部眼科
伊勢重之	助手	福島県立医科大学医学部眼科
小島 彰	学内講師	福島県立医科大学医学部眼科
大口泰治	助教	福島県立医科大学医学部眼科
野地裕樹	助手	福島県立医科大学医学部眼科
菅野幸紀	助教	福島県立医科大学医学部眼科
小笠原雅	助手	福島県立医科大学医学部眼科
今泉公宏	助手	福島県立医科大学医学部眼科
小山田紘	助手	福島県立医科大学医学部眼科
菊池重幸	臨床教授	保原中央クリニック
鈴木勝浩	臨床教授	大原総合病院
神田尚孝	臨床准教授	寿泉堂総合病院
塩谷 浩	非常勤講師	しおや眼科
藤原聡之	非常勤講師	いとう眼科
伊藤 健	非常勤講師	伊藤眼科
佐柄英人	非常勤講師	マルイ眼科
金子久俊	非常勤講師	ほぼら眼科
古田 歩	非常勤講師	前田眼科
丸子一郎	非常勤講師	東京女子医科大学
新澤 恵	非常勤講師	東京歯科大学 市川総合病院
荒木 聡	客員講師	塙厚生総合病院
平井香織	客員講師	星総合病院
山田文子	客員講師	保原中央クリニック
齋藤国治	客員講師	太田西ノ内病院
近藤剛史	客員講師	竹田総合病院

科目・コース(ユニット)名	頭頸部・口腔【医学4】						
(英語名称)							
担当責任者	大森 孝一 長谷川 博						
開講年次	4年	開講学期	1・2期	必修／選択	必修	授業形態	講義

概要／方針等

「耳鼻咽喉科・頭頸部外科学」とは、その成立過程を歴史的に見ると、19世紀末から今世紀のはじめにかけて、外科学から分かれた耳科学と、内科学から分かれた鼻科学および咽喉科学がそれぞれ専門分化し、合併することによって成立した学問であり、外科的な面と内科的な面を有している。その取り扱い領域は聴覚、平衡覚、嗅覚、視覚、味覚、咀嚼、構音、発声、嚥下など、日常生活に重要な機能を有しているのみならず、顔面、頸部など整容的にも重要な部位を占めている。すなわち現在の耳鼻咽喉科・頭頸部外科学は、固有の耳科学、鼻科学、口腔咽頭科学、喉頭科学を中心にして、オージオロジー(聴覚学)、神経耳科学、気管食道科学、音声言語医学、頭頸部腫瘍学、形成外科学、アレルギー学などと関連をもちつつ発展している。勿論、この広範な領域の全般についてふれることは、時間の制約もあって不可能である。この現状を踏まえながら重点的に授業を行っていく。

〈歯科口腔外科学分野〉

口腔外科は口腔を構成する、また口腔に関連する組織・器官の各種疾患のうち、主として観血的手術療法の対象となるものの診断と治療を行う臨床科である。歯科口腔外科の講義では、医学部学生に必要な顎口腔・歯ならびに隣接組織に現れる疾患について、その原因から、診断、治療法について理解して頂く。

学習目標

《耳科学》

- 一般目標 外耳、中耳、内耳の生理と解剖を理解し、主な疾患の原因、病態生理、症候の把握に基づく診断と治療を学ぶ。
 行動目標 ① 外耳、中耳、内耳の解剖と機能を理解し説明できる。
 ② 外耳、中耳、内耳の主な疾患、病態生理、症候と診断について説明できる。
 ③ 外耳、中耳、内耳の主な疾患の治療法について説明できる。

《鼻科学》

- 一般目標 鼻、副鼻腔の生理と解剖を理解し、主な疾患の原因、病態生理、症候の把握に基づく診断と治療法を学ぶ。
 行動目標 ① 鼻、副鼻腔の解剖と機能を理解し説明できる。
 ② 鼻、副鼻腔の主な疾患、病態生理、症候と診断について説明できる。
 ③ 鼻、副鼻腔の主な疾患の治療法について説明できる。

《口腔科学・咽頭科学》

- 一般目標 口腔咽頭の生理と解剖を理解し、主な疾患の原因、病態生理、症候の把握に基づく診断と治療法を学ぶ。
 行動目標 ① 口腔咽頭の解剖と機能を理解し説明できる。
 ② 口腔咽頭の主な疾患、病態生理、症候と診断について説明できる。
 ③ 口腔咽頭の主な疾患の治療法について説明できる。

《喉頭科学、気管食道科学、頭頸部外科学》

- 一般目標 喉頭・気管・食道・頸部の生理と解剖を理解し、主な疾患の原因、病態生理、症候の把握に基づく診断と治療を学ぶ。
 行動目標 ① 喉頭・気管・食道・頸部の解剖と機能を理解し説明できる。
 ② 喉頭・気管・食道・頸部の主な疾患、病態生理、症候と診断について説明できる。
 ③ 喉頭・気管・食道・頸部の主な疾患の治療法について説明できる。
 ④ 内視鏡による気管、食道の検査法について説明できる。
 ⑤ 頭頸部外科で取り扱う主な疾患の診断、治療法について説明できる。

《音声言語医学》

- 一般目標 音声言語医学で取り扱う病態について理解を深める。
 行動目標 音声障害、言語障害を来す疾患についての原因、病態生理、症候、診断、治療法について説明できる。

〈歯科口腔外科学分野〉

- 一般目標 顎口腔・歯ならびに隣接組織に現れる先天性および後天性疾患について、その原因、病態生理と症状、診断と治療法を理解する。
 行動目標 ① 顎口腔、歯の解剖、生理、必要な検査法を理解し、説明できる。
 ② 主に、以下の疾患についての病態生理と症状、診断、治療法が説明できる。
 a. う蝕、歯肉炎、辺縁性歯周炎
 b. 歯原性炎症、特異性炎、嚢胞性疾患
 c. 外傷、奇形、顎変形症
 d. 口腔粘膜疾患、腫瘍
 e. 顎関節疾患など

テキスト	特になし。随時プリントを配布
参考書	<p>新耳鼻咽喉科学 切替一郎原著 野村恭也編著 南山堂 税別 ¥16,000</p> <p>イラスト耳鼻咽喉科 森満 保著 光文堂 税別 ¥4,900</p> <p>MINOR TEXTBOOK 耳鼻咽喉科学 久保 武他著 金芳堂 税別 ¥4,000</p> <p>NEW 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 喜多村 健、森山 寛編集 南江堂 税別 ¥6,500</p> <p>医学を学ぶ人の歯科口腔外科テキスト 都 温彦他編 医学情報社 税込 ¥6,480</p> <p>口腔外科学 宮崎 正編 医歯薬 税別 ¥24,000</p> <p>口腔外科・病理診断アトラス 石川達也監修 医歯薬 税別 ¥14,000</p> <p>口腔病変診断アトラス 伊藤秀夫他編 医歯薬 税別 ¥35,000</p>
評価方法	<p>(1) 4年次後期: 講義内容について客観的試験</p> <p>(2) 講義における出席不良者には、4年次後期試験の受験資格を与えないことがある。</p> <p>(3) 評価は出席日数、聴講態度、レポート、試験その他の方法により総合的に判定される。</p>
その他(メッセージ等)	真面目な勉学態度・積極的な取り組みを希望する。

授業計画/担当教員等

2015年度

- 1回: 4月9日(木)VI/15:20-16:20/耳科学総論/担当: 松井隆道
- 2回: 4月16日(木)VI/15:20-16:20/耳鼻咽喉科総論/担当: 大森孝一
- 3回: 4月23日(木)V/14:10-15:10/外耳・中耳1/担当: 松井隆道
- 4回: 4月23日(木)VI/15:20-16:20/外耳・中耳2/担当: 野本幸男
- 5回: 4月30日(木)V/14:10-15:10/内耳(聴覚)/担当: 小川洋
- 6回: 4月30日(木)VI/15:20-16:20/内耳(平衡)/担当: 小川洋
- 7回: 5月7日(木)V/14:10-15:10/口腔/担当: 松塚崇
- 8回: 5月7日(木)VI/15:20-16:20/咽頭/担当: 松塚崇
- 9回: 5月14日(木)V/14:10-15:10/プライマリケア救急/担当: 今泉光雅
- 10回: 5月14日(木)VI/15:20-16:20/気管食道/担当: 横山秀二
- 11回: 5月21日(木)V/14:10-15:10/唾液腺/担当: 鈴木政博
- 12回: 5月21日(木)VI/15:20-16:20/頭頸部外科/担当: 鈴木政博
- 13回: 5月28日(木)V/14:10-15:10/鼻総論/担当: 野本美香
- 14回: 5月28日(木)VI/15:20-16:20/喉頭/担当: 大森孝一
- 15回: 6月4日(木)V/14:10-15:10/鼻各論1/担当: 多田靖宏
- 16回: 6月4日(木)VI/15:20-16:20/鼻各論2/担当: 多田靖宏
- 17回: 6月11日(木)V/14:10-15:10/音声言語/担当: 谷亜希子
- 18回: 6月11日(木)VI/15:20-16:20/補講
- 19回: 6月30日(火)V/14:10-15:10/再生医学/担当: 大森孝一
- 20回: 7月7日(火)V/14:10-15:10/頭頸部病理講義/担当: 鈴木理
- 21回: 7月14日(火)V/14:10-15:10/頭頸部病理実習1/担当: 鈴木理
- 22回: 7月21日(火)V/14:10-15:10/頭頸部病理実習2/担当: 鈴木理
- 23回: 9月8日(火)V/14:10-15:10/口腔外科 総論/担当: 長谷川博
- 24回: 9月15日(火)V/14:10-15:10/口腔外科 各論1/担当: 金子哲治
- 25回: 9月29日(火)V/14:10-15:10/各論2/担当: 金子哲治
- 26回: 10月6日(火)V/14:10-15:10/各論3/担当: 佐久間知子
- 27回: 10月13日(火)V/14:10-15:10/各論4/担当: 菅野寿
- 28回: 10月20日(火)V/14:10-15:10/口腔ケア・歯科一般/担当: 菅野寿

- 大森 孝一 教授 耳鼻咽喉科学講座
- 小川 洋 教授 会津医療センター耳鼻咽喉科学講座
- 松塚 崇 准教授 耳鼻咽喉科学講座
- 多田 靖宏 講師 耳鼻咽喉科学講座
- 横山 秀二 講師 会津医療センター耳鼻咽喉科学講座
- 松井 隆道 講師 耳鼻咽喉科学講座
- 野本 幸男 講師 耳鼻咽喉科学講座
- 鈴木 政博 助手 耳鼻咽喉科学講座
- 野本 美香 助教 耳鼻咽喉科学講座
- 今泉 光雅 助教 耳鼻咽喉科学講座
- 谷 亜希子 助教 耳鼻咽喉科学講座

鈴木 理 准教授 病理病態診断学講座

長谷川 博 准教授 歯科口腔外科

菅野 寿 助手 歯科口腔外科

佐久間知子 助手 歯科口腔外科

金子 哲治 助手 歯科口腔外科

科目・コース(ユニット)名	精神【医学4】						
(英語名称)	Psychiatry						
担当責任者	矢部博興						
開講年次	4年	開講学期	1・2期	必修／選択	必修	授業形態	講義

概要／方針等

1 4月8日 8:40-9:40 矢部 精神科診断法1

2 4月15日 8:40-9:40 矢部 精神科診断法2

(到達目標)患者-医師の良好な信頼関係にもとづく精神科面接の基本を説明できる。

(到達目標)精神科診断分類法(多軸診断システムを含む)を説明できる。

(講義内容)

- (1) これから行われる神経精神医学の講義全体の予定を知りイメージを持つ。
- (2) 神経精神医学が対象とする疾患や障害にはどんなものがあるかを知る。
- (3) 精神疾患の診察と診断の進め方の概要を知る。
- (4) 異常な精神現象としての精神症状にはどのようなものがあるかを知る。

3 4月22日 8:40-9:40 矢部 精神症状学1

4 5月13日 8:40-9:40 矢部 精神症状学2

(到達目標)不安・躁うつをきたす精神障害を列挙し、その鑑別診断を説明できる。

(到達目標)不眠と幻覚・妄想をきたす精神障害を列挙し、その鑑別診断と治療を説明できる。

(講義内容)

精神症状学1

- (1) 知覚の領域の異常
- (2) 思考の異常
- (3) 記憶の異常
- (4) 知能の異常
- (5) 自我意識の異常

精神症状学2

- (1) 感情の異常
- (2) 欲動の異常
- (3) 意識の異常
- (4) 性格
- (5) 状態像診断

5 5月20日 8:40-9:40 三浦 うつ病

6 5月27日 8:40-9:40 三浦 双極性障害

(到達目標)うつ病の症候と診断を説明できる。

(到達目標)躁うつ病(双極性障害)の症候と診断を説明できる。

(講義内容)

(1) 気分障害には単極性うつ病、双曲性気分障害(躁うつ病)とがあること、それらの臨床症状、病因症状、病因仮説、治療法について理解する。

(2) 気分障害について勉強することを通して、うつ病や躁病が疾患であって、単に気分が沈んでいるとか、気分がよいといった一般に誰にでも認められる日常的な気分の変化ということとは異なることを理解する。

(3) ことにうつ病は医師であれば何科の医師であっても遭遇する可能性が高い疾患であるので、うつ病の診断と治療の粗筋はしっかりと勉強する。その際に留意すべき点は、精神療法的に患者とどう接すれば良いか、患者にどう話せば良いかを知っておく。

7 6月3日 8:40-9:40 三浦 自殺予防

(講義内容)

- (1) 日本における自殺の現状
- (2) G8諸国における自殺死亡率
- (3) 福島県における自殺の現状
- (4) 自殺未遂繰り返し症例の背景にある人格の病理
- (5) 頻回に救急外来を受診した境界性人格障害の症例
- (6) 境界性人格障害の治療

8 6月10日 8:40-9:40 國井 睡眠・覚醒障害

(講義内容)

- (1) 睡眠障害の評価法を知る。
- (2) 不眠をきたす代表的な疾患について知る。
- (3) 代表的な睡眠障害について知る。
- (4) 睡眠障害の治療法について知る。

予備? 6月17日

I 期試験6月24日

9 7月1日 8:40-9:40 矢部 身体表現性障害

(到達目標)身体表現性障害の症候、診断と治療を説明できる。

(講義内容)

10 9:50-10:50 國井 心身症

(到達目標)心身症の症候と診断を説明できる。

(講義内容)

- (1) 心身症の定義と具体例
- (2) 心身症の診断
- (3) 心身医学的な治療法

11 7月8日 8:40-9:40 板垣 パニック障害と社会不安障害

(到達目標)不安障害(パニック、恐怖症性あるいは全般性不安障害)の症候と診断を説明できる。

(講義内容)

- (1) パニック障害とはどういう疾患か
- (2) パニック障害について
- (3) 社会不安障害とはどういう疾患か
- (4) 社会不安障害の治療について

12 9:50-10:50 國井 解離性<転換性>障害

(到達目標)解離性<転換性>障害の症候、診断と治療を説明できる。

(講義内容)

- (1) 解離<転換>とはどういう状態か
- (2) 解離性<転換性障害>について
- (3) 解離性<転換性障害>の分類
- (4) 解離性<転換性障害>の治療について

13 7月15日 8:40-9:40 矢部 統合失調症1

14 9:50-10:50 矢部 統合失調症2

(到達目標)統合失調症の急性期の診断と救急治療を説明できる。

(到達目標)統合失調症の慢性期の症候と診断を説明できる。

(講義内容)

- (1) 統合失調症は代表的な内因性精神病であること。そもそも精神病的定義は何かを再確認すること。
- (2) 統合失調症の臨床症状、病因仮説、治療法について理解する。統合失調症について勉強することを通して、統合失調症が疾患であって個人の持つ独特な世界観であるとか個人の独特な生き方であるとかとは異なることを理解する。
- (3) 抗精神病薬の作用機序についてある程度理解し、抗精神病薬とは精神病に対して非特異的にしか作用しない漠然とした「鎮静剤」とか「睡眠剤」とかではないことを理解する。

15 7月22日 8:40-9:40 板垣 児童精神医学1

16 9:50-10:50 板垣 児童精神医学2

(到達目標)精神遅滞(知的障害)と広汎性発達障害(自閉症)を概説できる。

(到達目標)多動性障害と行為障害を概説できる。

(講義内容)

- (1) 正常(健康)な小児の心性と発達障害について知る。
- (2) 小児の診察のすすめ方のポイントを知る。
- (3) 小児期の精神障害にはどのようなものがあるかについて知る。
- (4) 小児期の精神障害はどのような原因によってなるのかを知る。
- (5) 小児期の精神障害の治療方法について知る。

<夏季休業>

17 9月 9日 8:40-9:40 三浦 アルコール(到達目標)薬物依存
(到達目標)薬物の乱用、依存、離脱の病態と症候を説明できる。
(到達目標)アルコール依存症の病態、診断と合併症を説明できる。
(講義内容)

- (1) 依存物質の特徴を知る。
- (2) 依存形成のメカニズムを理解する。
- (3) 依存、離脱に伴って出現する精神症状について知る。

18 9:50-10:50 三浦 精神科薬物療法
(到達目標)主な精神疾患・障害の治療を概説できる。
(講義内容)

- (1) 向精神薬とは
- (2) 抗不安薬
- (3) 睡眠導入剤
- (4) 抗うつ薬・気分安定薬
- (5) 抗精神病薬
- (6) 抗てんかん薬
- (7) その他

19 9月16日 8:40-9:40 小林 認知症
(到達目標)認知症の診断と治療を説明できる。
(講義内容)

- (1) 認知症の概念
- (2) 認知症の分類
- (3) 認知症の診断・治療
- (4) 認知症の医療・介護・福祉連携

20 9:50-10:50 和田 脳器質性精神病/症状精神病
(到達目標)症状精神病の概念と診断を概説できる。
(講義内容)

- (1) 脳器質性精神病/症状精神病の概念
- (2) 脳器質性精神病/症状精神病的発作形式と経過の共通性
- (3) 脳器質性精神病/症状精神病を起こしやすい基礎疾患
- (4) 各々の基礎疾患に続く精神症状の特徴

<秋分の日>

21 9月30日 8:40-9:40 矢部 思春期精神医学+精神療法
(到達目標)人格<パーソナリティ>障害を概説できる。
(講義内容)

- (1) 思春期における心身の変化の概要を知る。
- (2) 思春期によくみられる精神疾患・障害の概要を知る。
- (3) それらの疾患において、思春期の発達上の変化がどのように影響しているかを知る。
- (4) それらの疾患において、思春期心性がどのように反映しているかを知る。
- (5) 思春期・青年期によくみられる精神疾患・障害について理解する。

22 9:50-10:50 矢部 摂食障害
(到達目標)摂食障害の症候と診断を説明できる。
(講義内容)

- (1) 摂食障害とは
- (2) 摂食障害の発作要因
- (3) 摂食障害によくみられる特徴
- (4) 摂食障害の治療:多面的アプローチを要する。

23 10月7日 8:40-9:40 前田 ストレス関連障害

24 9:50-10:50 藤井 災害精神医学
(到達目標)ストレス関連疾病(PTSDを含む)の症候と診断を説明できる。
(講義内容)

- (1)人が災害や事故、犯罪等の甚大な出来事に遭遇した結果引き起こされる精神医学的問題全般について理解する。
- (2)とくに外傷性ストレス障害(PTSD)の症候や疫学、治療について理解する。

- (3)阪神淡路大震災などの大規模災害に遭遇した際の、PTSDや悲嘆等の精神医学的問題について理解する。
 (4)福島県で引き起こされている様々な精神医学問題について理解する。

25 10月14日 8:40-9:40 三浦 リエゾン精神医学
 (到達目標)コンサルテーション・リエゾン精神医学を説明できる。

- (講義内容)
 (1) リエゾン精神医学の正確な概念を知る。
 (2) 具体的な症例を通じて、リエゾン精神医学の実際を把握する。
 (3) リエゾン精神医学で特に必要な精神医学的知識を体系的に理解する。

26 9:50-10:50 松本貴 精神療法/心理・社会的療法
 (到達目標)主な精神疾患・障害の社会的療法などを概説できる。

- (講義内容)
 (1) 精神療法および心理社会的療法について
 (2) 精神科リハビリテーション(デイケア・作業療法)について
 (3) 生活技能訓練・心理教育について
 (4) その他(講義内容)

27 10月21日 8:40-9:40 矢部 てんかん
 (講義内容)

- (1) てんかんの定義
 (2) てんかん発作の分類
 (3) てんかんの型分類
 (4) てんかんの治療のあらまし

28 9:50-10:50 志賀 精神医学と法律
 (到達目標)精神科医療の法と倫理に関する必須項目(精神保健および精神障害者福祉に関する法律、心神喪失者等医療観察法、インフォームドコンセント)を説明できる。

(講義内容)

学習目標

テキスト

参考書

評価方法 ペーパーテストおよび出席状況を含め総合的に評価する。

その他(メッセージ等)

授業計画/担当教員等

平成27年度講義予定

水曜日 8:40~9:40 (4/8 - 6/10)

水曜日 8:40~9:40および9:50~10:50 (7/1 - 10/21)

- 1 4月 8日 8:40-9:40 矢部 精神科診断法1
- 2 4月 15日 8:40-9:40 矢部 精神科診断法2
- 3 4月 22日 8:40-9:40 矢部 精神症状学1
- 4 5月 13日 8:40-9:40 矢部 精神症状学2
- 5 5月 20日 8:40-9:40 三浦 うつ病
- 6 5月 27日 8:40-9:40 三浦 双極性障害
- 7 6月 3日 8:40-9:40 三浦 自殺予防
- 8 6月 10日 8:40-9:40 國井 睡眠・覚醒障害
- 予 6月 17日 8:40-9:40 (予備日)
- 6月 24日 I期試験
- 9 7月 1日 8:40-9:40 矢部 身体表現性障害
- 10 9:50-10:50 國井 心身症
- 11 7月 8日 8:40-9:40 板垣 パニック障害と社会不安障害
- 12 9:50-10:50 國井 解離性<転換性>障害
- 13 7月 15日 8:40-9:40 矢部 統合失調症1

14		9:50-10:50 矢部 統合失調症2
15	7月22日	8:40-9:40 板垣 児童精神医学1
16		9:50-10:50 板垣 児童精神医学2
夏季休業		
17	9月 9日	8:40-9:40 三浦 アルコール(到達目標)薬物依存
18		9:50-10:50 三浦 精神科薬物療法
19	9月16日	8:40-9:40 小林 認知症
20		9:50-10:50 和田 脳器質性精神病/症状精神病
秋分の日		
21	9月30日	8:40-9:40 矢部 思春期精神医学+精神療法
22		9:50-10:50 矢部 摂食障害
23	10月7日	8:40-9:40 前田 災害精神医学
24		9:50-10:50 藤井 外傷後ストレス障害(PTSD)
25	10月14日	8:40-9:40 三浦 リエゾン精神医学
26		9:50-10:50 松本貴 精神療法/心理・社会的療法
27	10月21日	8:40-9:40 矢部 てんかん
28		9:50-10:50 志賀 精神医学と法律

科目・コース(ユニット)名	放射線診断治療学【医学4】						
(英語名称)							
担当責任者	鈴木 義行						
開講年次	4年	開講学期	前期	必修／選択	必修	授業形態	講義

概要／方針等

放射線医学は、“放射線診断”、“放射線治療”、“核医学診断・治療”の放射線や放射性物質を利用した3つの分野からなる。近年のIT技術の急速な発展に伴い、放射線医学分野の発展も目覚ましく、臨床医学には欠かすことのできない重要な分野となっている。本講義は、第3学年後期に引き続き、診断・治療・核医学の基礎について講義を行う。放射線医学の基本的な知識や考え方を整理・習得し、臨床実習(BSL)に活用できるよう取り組んでほしい。

学習目標

一般目標

臨床実習にて積極的に診療に参加することが可能なレベルの放射線医学(放射線診断の一部、放射線治療、核医学診断・治療)の基本的な知識を身につける。

行動目標

- 1 循環器疾患・等の画像診断の適応・等を理解し、代表的な疾患の画像診断学的な所見を説明できる。
- 2 Interventional Radiologyの原理、特徴、を理解し、適応、手技、副作用を説明できる。
- 3 放射線治療の原理を理解し、治療法・有害事象について説明できる。
- 4 代表的な疾患について(肺癌、前立腺癌、脳腫瘍、頭頸部腫瘍、子宮癌、乳癌、など)の放射線治療法の位置づけ、適応を理解し、説明できる。
- 5 核医学診断について理解し、代表的な疾患の画像診断学的な所見を説明できる。

テキスト

特に定めない、が、自学自習のための参考書として下記を勧める。

参考書

- (1)放射線画像診断
標準放射線医学(第7版)西谷・遠藤・松井・伊東 医学書院 2011
放射線医学 イントロダクション 竹川、田中 医学書院 2012
Radiology Review Manual, 7th Ed Dahnert, 2011
画像診断ガイドライン 2013年版 日本医学放射線学会、日本放射線科専門医会 金原出版 2013
画像診断を学ぼう 江原 メディカルサイエンス 2008
- (2)核医学
核医学ノート 久保・木下(第5版)金原出版 2009
核医学診断ガイドライン2008 日本核医学会 2008
- (3)放射線腫瘍学(治療)
がん・放射線治療2010 大西・他 篠崎出版新社 2010
臨床放射線生物学の基礎 訳:安藤・他 放射線医療国際協力推進機構 2013.

評価方法

3年生・後期に行った4回の講義と合わせて、試験期間に試験を行う。2014年3月中旬までに5年生への進級の判定を行う。
授業の評価は(平常点、レポート、試験その他の方法により)総合的に判定される。

その他(メッセージ等)

授業計画／担当教員等

月/日	時限	項目	内容(キーワード等)	担当者
4/9 木	I	(2)放射線画像診断学-4	循環器画像診断:心臓CT	中川 学
4/16 木	I	(2)放射線画像診断学-5	救急における画像診断	嶋原 武志
4/23 木	I	(3)IVR-1	IVRの基本手技	宮嶋 正之
4/30 木	I	(3)IVR-2	IVRの実際	菊池 賢
5/7 木	I	(3)IVR-3	CTガイド下針生検	本荘 浩
5/14 木	I	(4)核医学診断学-1	核医学画像診断:脳、心筋	伊藤 浩
5/21 木	I	(4)核医学診断学-2	核医学画像診断:腫瘍診断	石井 士朗
5/28 木	I	(4)核医学診断学-3	核医学画像診断:分子イメージング	伊藤 浩
6/4 木	I	(4)核医学診断学-4	核医学画像診断:内分泌、骨	石井 士朗
6/11 木	I	(1)放射線画像診断学総論	放射線画像診断学のまとめ	伊藤 浩
6/30 火	VI	(6)放射線腫瘍学-2	最先端放射線治療	鈴木 義行
7/2 木	I	(6)放射線腫瘍学-3	肺・縦隔腫瘍	佐藤 久志

7/9 木	I (6)放射線腫瘍学-4	男性生殖器・泌尿器腫瘍	中島 大
7/16 木	I (6)放射線腫瘍学-5	中枢神経系腫瘍+皮膚・骨軟部腫瘍	鈴木 義行
7/23 木	I (6)放射線腫瘍学-6	婦人科腫瘍	若月 優
9/10 木	I (6)放射線腫瘍学-7	肝胆膵・消化管腫瘍	佐藤 久志
9/17 木	I (6)放射線腫瘍学-8	緩和ケア+温熱治療	黒崎 弘正
9/24 木	II (6)放射線腫瘍学-9	血液腫瘍+乳腺腫瘍	海老 潤子
10/1 木	I (6)放射線腫瘍学-10	頭頸部腫瘍	斎藤 淳一
10/1 木	II (5)放射線腫瘍学総論	放射線治療学のまとめ	鈴木 義行

I 時限: 8:40~9:40 II 時限: 9:50~10:50 VI 時限: 15:20~16:20

教員氏名	職	所属
鈴木 義行	教授	放射線腫瘍学講座
伊藤 浩	教授	先端臨床研究センター
橋本 直人	講師	放射線医学講座
石井 士朗	講師	放射線医学講座
嶋原 武志	助教	放射線医学講座
宮嶋 正之	助教	放射線医学講座
菊池 賢	助教	放射線医学講座
佐藤 久志	助教	放射線腫瘍学講座
海老 潤子	助教	放射線腫瘍学講座
中島 大	助手	放射線腫瘍学講座
中川 学	客員講師	大原総合病院
本荘 浩	臨床准教授	白河厚生総合病院
若月 優	非常勤講師	放射線医学総合研究所
黒崎 弘正	非常勤講師	JCHO新宿メディカルセンター
斎藤 淳一	非常勤講師	群馬大学

科目・コース(ユニット)名	麻酔【医学4】						
(英語名称)	Anesthesiology						
担当責任者	村川雅洋						
開講年次	4年	開講学期	I期	必修／選択	必修	授業形態	講義

概要／方針等

麻酔科学は、麻酔、集中治療(救急医療)、ペインクリニック、ならびに緩和医療など幅広い知識と技術が要求される広範囲の診療分野を扱う。したがって、上記の一見かけ離れた診療分野の疾病に共通する臓器・組織機能の恒常性の破綻と疼痛の病態生理を理解し、その上でこれらに対処する手法を学ぶ。

学習目標

一般目標

手術侵襲や各種の痛み疾患ならびに急性臓器機能不全に対応できる知識および技能を身につけるため、麻酔科学・集中治療医学の基本を理解する。

行動目標

1. 全身麻酔法および麻酔器の構造について基本的な説明ができる。
2. 吸入麻酔薬の薬理作用について基本的な説明ができる。
3. 静脈麻酔薬の薬理作用について基本的な説明ができる。
4. 筋弛緩薬の薬理作用について基本的な説明ができる。
5. 麻薬・鎮痛薬の薬理作用について基本的な説明ができる。
6. 局所麻酔薬の薬理作用について基本的な説明ができる。
7. 各種神経ブロック法、硬膜外麻酔法、脊髄くも膜下麻酔法について基本的な説明ができる。
8. 各種痛み疾患および術後痛の発生機序と鎮痛法について基本的な説明ができる。
9. 麻酔・手術に伴う生理的変化(神経、呼吸、循環、内分泌、代謝、体液など)について基本的な説明ができる。
10. 呼吸器、循環器、内分泌・代謝疾患、神経筋疾患などの患者の麻酔・集中治療について基本的な説明ができる。
11. 小児および妊産婦の麻酔について基本的な説明ができる。

テキスト	特に指定しない
参考書	1. 「Basics of Anesthesia, 6th ed」(2011) eds. Miller RD & Pardo M. Saunders. 2. 「標準麻酔科学」第6版(2011)古家仁、稲田英一、後藤隆久編、医学書院
評価方法	筆記試験により総合的に評価される。
その他(メッセージ等)	1. 講義では重点的なことを取り上げ、不足分は自学・自習を原則とする 2. 学習者が主体的な思考に基づき知識・技術を習得することを原則とする。

授業計画／担当教員等

- 1回・4月8日(水)Ⅱ時限／全身麻酔薬の臨床薬理／村川 雅洋
- 2回・4月8日(水)Ⅲ時限／麻酔器・麻酔と安全管理／村川 雅洋
- 3回・4月15日(水)Ⅱ時限／吸入麻酔薬／黒澤 伸
- 4回・4月15日(水)Ⅲ時限／麻酔と呼吸・呼吸器外科の麻酔／黒澤 伸
- 5回・4月22日(水)Ⅱ時限／麻薬・鎮痛薬／五十洲 剛
- 6回・4月22日(水)Ⅲ時限／麻酔と脳神経・脳神経外科の麻酔／五十洲 剛
- 7回・5月13日(水)Ⅱ時限／静脈麻酔薬／小原 伸樹
- 8回・5月13日(水)Ⅲ時限／麻酔と循環・心臓血管外科の麻酔／小原 伸樹
- 9回・5月20日(水)Ⅱ時限／筋弛緩薬・神経筋疾患の麻酔／村川 雅洋
- 10回・5月20日(水)Ⅲ時限／気道確保／村川 雅洋
- 11回・5月27日(水)Ⅱ時限／集中治療医学概論／箱崎 貴大
- 12回・5月27日(水)Ⅲ時限／酸素療法・人工呼吸療法／箱崎 貴大
- 13回・6月3日(水)Ⅱ時限／局所麻酔薬・神経ブロック／中川 雅之
- 14回・6月3日(水)Ⅲ時限／ペインクリニック／中川 雅之
- 15回・6月10日(水)Ⅱ時限／硬膜外・脊髄くも膜下麻酔。産科麻酔／五十洲 剛
- 16回・6月10日(水)Ⅲ時限／術後痛とその対策／五十洲 剛
- 17回・6月17日(水)Ⅰ時限／小児麻酔／鈴木 康之
- 18回・6月17日(水)Ⅱ時限／麻酔と内分泌・内分泌疾患の麻酔／黒澤 伸
- 19回・6月17日(水)Ⅲ時限／輸液・消化器疾患の麻酔／黒澤 伸

科目・コース(ユニット)名	救急・災害医療【医学4】						
(英語名称)	Emergency and Critical Care Medicine						
担当責任者	田勢長一郎						
開講年次	4年	開講学期	I - II期	必修／選択	必修	授業形態	講義

概要／方針等

救急医療は基本的な医療の一つであり。救急患者に遭遇した場合、すべての医師にとって、的確な対応が要求される。その範囲は多岐にわたり、また、各診療科と重複する部分も多い。救急医学の講義では生態に侵襲が加わった場合の対応を理解し、呼吸・循環障害並びに外傷、中毒、熱傷などを学ぶ。また、これらの疾患に対し迅速な診断・治療方針のほか初期治療の重要性を理解させる。

学習目標

〈救急概論・重症救急疾患〉

一般目標

- 1 救急疾患の特殊性及び災害医療について学ぶ
- 2 心停止時の診断および蘇生法をEBMIに基づいて学ぶ
- 3 呼吸不全、循環不全、意識障害の病態、診断、治療を学ぶ

行動目標

- 1 各主訴より緊急度、重症度を説明できる。
- 2 心電図上Vf、PEA、Asystoleの診断ができる。
- 3 PEA、Asystoleの原因疾患を説明できる。
- 4 PEA、Asystoleに対し適切な治療を説明できる。
- 5 Vfに対し除細動を始めEBMIに基づいた治療を説明できる。
- 6 呼吸不全の病態、診断、治療法を説明できる。
- 7 人工呼吸法について説明できる。
- 8 循環不全について病態、診断、治療法を説明できる。
- 9 意識障害をきたす疾患、診断、治療法の概略を説明できる。
- 10 災害医療の基礎およびその特殊性を理解できる。

(生態侵襲学)

一般目標

- 1 外傷、熱傷、電撃症時の病態、診断、治療を学ぶ。
- 2 中毒、熱中傷、低体温、溺水の病態、診断、治療を学ぶ。
- 3 特殊感染症の病態、診断、治療を学ぶ。
- 4 心肺蘇生法を実習する。

行動目標

- 1 外傷、熱傷、電撃症について病態、診断、治療法を説明できる。
- 2 中毒、熱中症、低体温、溺水などについて病態、診断、治療法を説明できる。
- 3 破傷風、ガス壊疽、炭疽などについて病態、診断、治療法を説明できる。
- 4 Basic Life Support (BSL)とAdvanced Cardiac Life Support (ACLS)を説明できる。
- 5 Vfの診断およびダミーに対し除細動を適切に行える。
- 6 外傷の標準的診療を説明できる。

テキスト	特に指定しない
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1 日本救急医学会監修 標準救急医学 医学書院 2 改訂外傷初期診療ガイドライン へるす出版 3 AHA心肺蘇生と救急新血管治療のためのガイドライン2010 4 DMAT標準テキスト 日本集団災害医学会
評価方法	授業の出席、第4学年後期末の筆記試験等により総合的に判定される
その他(メッセージ等)	<ol style="list-style-type: none"> 1.講義では重点的なことを取り上げ、不足分は自学・自習を原則とする 2.学習者が主体的な思考に基づき知識・技術を習得することを原則とする。

授業計画／担当教員等

- 1回・7月01日(水)3時限／救急医療システム／田勢長一郎
- 2回・ 4時限／救急疾患の診察・鑑別／伊関 憲
- 3回・ 5時限／意識障害／伊関 憲

- 4回・7月08日(水)3時限／心肺蘇生法／塚田泰彦
- 5回・ 4時限／呼吸不全／塚田泰彦
- 6回・7月15日(水)3時限／循環不全／根本千秋
- 7回・ 4時限／ショック／根本千秋
- 8回・7月22日(水)3時限／外傷総論／長谷川有史
- 9回・ 4時限／外傷各論／長谷川有史
- 10回・9月9日(水)3時限／熱傷・電撃症／鈴木 剛
- 11回・ 4時限／肺血症／鈴木 剛
- 12回・9月16日(水)3時限／熱中症・溺水・低体温／阿部良伸
- 13回・ 4時限／重症特殊感染症(破傷風、ガス壊疽・炭素・他)／阿部良伸
- 14回・9月30日(水)3時限／中毒Ⅰ／伊関 憲
- 15回・ 4時限／中毒Ⅱ／伊関 憲
- 16回・10月07日(水)3時限／災害医療総論／島田二郎
- 17回・ 4時限／災害医療各論／島田二郎
- 18回・10月14日(水)3時限／災害医療DMAT／近藤久禎
- 19回・ 4時限／災害医療特殊災害／近藤久禎
- 20回・10月21日(水)3時限／被災者支援／小柴貴明
- 21回・ 4時限／OSCE・まとめ／田勢長一郎

科目・コース(ユニット)名	感染制御【医学4】						
(英語名称)	Infection Control						
担当責任者	教授 金光敬二						
開講年次	4年	開講学期	2期	必修／選択	必修	授業形態	講義

概要／方針等	
【テーマ】感染制御	
学習目標	
医療関連感染とはどういうものか、その予防と対策、適正抗菌薬使用について理解する。	
テキスト	
参考書	
評価方法	
その他(メッセージ等)	

授業計画／担当教員等	
第1回	9月 10日(木)4限／感染制御総論／金光 敬二
第2回	9月 17日(木)4限／感染の定着、薬剤耐性菌／山本 夏男
第3回	9月 24日(木)4限／適正抗菌薬使用／山本夏男
第4回	10月 1日(木)4限／職業感染予防／金光 敬二
第5回	10月 1日(木)5限／アウトブレイクとその解析／金光 敬二

科目・コース(ユニット)名	臨床薬理学【医学4】						
(英語名称)	Clinical pharmacology						
担当責任者	鳥羽 衛						
開講年次	4年	開講学期	2期	必修/選択	必修	授業形態	講義

概要/方針等

薬物治療は疾患治療の大きな柱である。近年、科学の発展に伴い、顕著な薬効を示す薬や、新しい作用機序をもつ特徴のある薬が次々に開発され、多くの疾患ならびに治癒困難であった疾患も治癒可能になってきている。それに伴い有害作用(副作用)も起こりやすくなっており、また人口の高齢化により、複数疾患を有する患者が増加し、多剤併用による相互作用の発生頻度も高くなっている。医薬品の選択や、投与量、投与方法の決定など、従来医師の経験や勘に頼っていた「さじ加減」では対応困難となってきている。一方、リスクマネジメントの観点からみると、医薬品が関連する医療事故が非常に高い割合を占めてきている。

以上のことより、医薬品適正使用の実践には、まず1つめに処方ルールの基本を理解し、正確に処方せんを発行できることが必要となる。2つめに、科学的な薬効評価によって薬の適応を決定し、疾患に基づく薬物体内動態の変化に対応した投与設計を行い、安全でかつ有効な処方を選択することが必要となる。具体的には、医薬品情報(特に医薬品添付文書)の入手方法、剤形と薬物動態関係、副作用、相互作用、血中濃度のモニタリング等を理解し、処方発行の際、必要となる基本的な知識を習得することが求められる。またがんが国民の疾病による死亡の最大原因となっている現状および「がん対策基本法」の施行を考慮し、特に重要と考えられる「抗がん剤」使用時の留意点ならびに疾病の治療とともに重要となる患者QOLの向上に寄与する疼痛緩和に関して、使用する医薬品の使い方と使い分けについても学ぶ。

学習目標

一般目標(GIO)

処方せんを正しく発行できるための基礎知識を習得する。

行動目標(SBO)

- 1) 剤形(投与方法)を列挙し、その薬物動態を説明できる。
- 2) 処方せんのルールを理解し、正しい処方せんを作成できる。
- 3) 副作用(有害事象)を分類し、副作用報告をどのように行うのか説明できる。
- 4) 相互作用を分類できる。
- 5) 処方時参考とする基本的な医薬品情報の収集ができる。
- 6) 癌患者へ用いる抗がん剤の使用時の留意点を説明できる。
- 7) 疼痛緩和薬の選択と使用方法について理解し、処方に適切に反映できる。

テキスト

特に指定しない。各回、関連する資料を配付する。

参考書

- ・研修医・医学生のためのくすりマニュアルー安全な薬物療法のためにー 伊賀立二編 南江堂
- ・疾患からみた臨床薬理学 改訂2版 大橋京一、藤村昭夫編集 じほう
- ・臨床薬理学 第2版 日本臨床薬理学会編 医学書院
- ・PMDA(医薬品医療機器総合機構)の医薬品医療機器情報提供ホームページ
【 <http://www.info.pmda.go.jp/> 】

評価方法

毎回の講義後に実施する講義内容に関する豆テスト、定期試験、出席日数その他の方法により総合的に評価される。

その他(メッセージ等)

不明な点は講義中であっても積極的に質問し、確認すること。

授業計画/担当教員等

1. 授業計画※

回数	月 日	時限	項 目	内容(キーワード)	担当者
1回	6月30日(火)	4時限	剤形と処方せんの書き方(1)	剤形、薬物動態、処方せん様式	鳥羽 衛
2回	7月 7日(火)	4時限	処方せんの書き方(2)	処方上の留意点、間違いやすい処方	鳥羽 衛
3回	7月14日(火)	4時限	医薬品情報	医薬品情報、添付文書、PMDA、医薬品インタビューフォーム	石井重亮
4回	7月21日(火)	4時限	副作用・医薬品相互作用・TDM	副作用、重篤度分類、自主報告、	

薬物相互作用、抗菌薬TDM 鳥羽 衛

5回	9月 8日(火)	4時限	抗がん剤使用時の留意点	抗がん剤、レジメン、曝露、安全使用	渡辺研弥
6回	9月15日(火)	4時限	疼痛緩和	オピオイド、用量換算	鈴木優佳
7回	9月29日(火)	4時限	医薬品開発と治験	治験、IRB、CRC, 医師主導治験	鳥羽 衛
8回	10月6日(火)	4時限			
9回	10月13日(火)	4時限			
10回	10月20日(火)	4時限			

※業務の都合等により講義の順番が前後するあるいは担当者が変更となる場合がある。

2. 担当教員一覧

教員氏名	職	所 属	備 考
鳥羽 衛	助教	公立大学法人福島県立医科大学附属病院薬剤部	副部長
鈴木優佳	助手	公立大学法人福島県立医科大学附属病院薬剤部	主任薬剤技師
石井重亮	助手	公立大学法人福島県立医科大学附属病院薬剤部	薬剤技師
渡辺研弥	助手	公立大学法人福島県立医科大学附属病院薬剤部	薬剤技師

科目・コース(ユニット)名	性差医療【医学4】						
(英語名称)	Gender-specific medicine						
担当責任者	小宮ひろみ						
開講年次	4年	開講学期	1期	必修／選択	必修	授業形態	講義

概要／方針等

性差医療の目的は性差・ライフステージを考慮したきめ細やかな医療の提供である。これまでの医療は生殖器以外の性差についてあまり注目されることはなかった。また、男性に比較し、女性の医学的データが十分ではなく、米国では1980年代から女性特有の病態を解明することがなされてきている。本講義は性差医療の概念・背景と生殖器以外の性差のある疾患また女性特有の病態に焦点をあて行う。また、どのような医学分野でも性差を意識した医療を展開することの重要性を講義する。さらに日本の性差医療のもうひとつの特徴として Narrative based medicine と傾聴がある。現在の医療現場を鑑み、その必要性を学生とともに考える。性差医療では漢方療法が頻用されており、その有用性についても講義する。

学習目標

一般目標

性差医療を理解するため性差について「生物学的性」と「社会的性」を理解し、かつ性差医療が発展してきた歴史・背景・概念を学習する。そのうえで、性差のある疾患について学習し、性差医療がめざす Evidence based medicine (EBM) と Narrative based medicine (NBM) を身につける。さらに性差医療で有用な漢方療法についても学習する。

行動目標

- 1 性差について染色体、遺伝子、ホルモン、ジェンダーに関してそれぞれの特徴をのべることができる。
- 2 性差医療の概念と歴史・背景をのべることができる。
- 3 性差のある代表的疾患として心疾患、メンタルヘルス、更年期障害、骨粗鬆症、泌尿器科疾患につきその特徴を述べることができる。
- 4 ジェンダーの視点から性差医療を考えることができる。
- 5 性差医療の重要な側面である NBM を実践できるようになること。また漢方療法の有用性を理解する。

テキスト

参考書	Principles of gender-specific medicine, Marianne J Legato, Elsevier academic press, USA 性差医学入門 女と男のよりよい健康のために 監修 貴邑富久子 (じほう) (Exploring the biological contributions to human health does sex matter? Theresa M, Wizemann and Mary-Lou Pardue, National Academy of Sciences) 性差医療 性差研究が医療を変える 編集 天野恵子 (真興交易出版部)
-----	---

評価方法 授業の評価は平常点、レポートおよび第4学年2期末に実施する筆記試験、その他の方法により総合的に判定される。

その他(メッセージ等)

授業計画／担当教員等

1回目	7月1日(木)	6時限	性差医療	性差医療の概念・歴史・背景	小宮ひろみ
2回目	7月15日(木)	6時限	性差医療	性差の構築①	小宮ひろみ
3回目	7月22日(木)	6時限	性差医療	性差の構築②	小宮ひろみ・諸橋憲一郎(九州大学・分子生命科学部門 性差生物学講座)
4回目	9月15日(火)	6時限	性差医療	泌尿器科疾患と性差	小宮ひろみ・小川総一郎(泌尿器科学講座)
5回目	9月16日(水)	6時限	性差医療	脂質異常症と性差	小宮ひろみ・天野恵子(静風荘病院)
6回目	9月29日(火)	6時限	性差医療	心疾患と性差	小宮ひろみ・嘉川亜希子(鹿児島大学・上山病院)
7回目	10月6日(火)	6時限	性差医療	更年期症候群 骨粗鬆症と性差	小宮ひろみ
8回目	10月13日(火)	6時限	性差医療	メンタルヘルスと性差	小宮ひろみ・丹羽真一(会津医療センター)
9回目	10月20日(火)	6時限	性差医療	Narrative based medicine 女性外来 漢方療法について	小宮ひろみ

科目・コース(ユニット)名	漢方医学Ⅲ【医学4】						
(英語名称)	Kampo medicine 3						
担当責任者	三猪忠道						
開講年次	4年	開講学期	2期	必修／選択	必修	授業形態	講義・実習

概要／方針等	
漢方医学的な理論や診察手技に基づく基本的かつ具体的な漢方診療の運用と、現代医療における漢方医学の位置づけを知る。	
学習目標	
<p>一般目標 1. 主要な漢方処方(証(適応病態)と具体的な適応条件を、四診の基本を含めて修得する。 2. 病人の証(漢方医学的病態)に応じた漢方処方の運用を理解する 3. 実地臨床における漢方医学の応用とその臨床効果の実際を理解する。 4. 漢方医学的な証に合わせた鍼灸治療を理解する。 5. 鍼灸臨床における疼痛疾患の治療方法を理解し、実践について学ぶ。</p> <p>行動目標 1. 六病位を概説し、それぞれにおける主な漢方方剤の適応を四診を含めて概説できる。 2. 気血水の異常を概説し、それぞれに対する主要な漢方方剤の適応を四診を含めて概説できる。 3. 使用上注意が必要な主な漢方薬について、その内容と注意点・副作用を説明できる。 4. 漢方医学的な診察(四診)所見を、主要な漢方処方の適応判断に応用できる。 5. 漢方薬の現代科学的な薬理作用について、例をあげて概説できる。 6. 疼痛疾患における鍼灸の治療方法の実際を学び、鍼灸治療の実際が概説できる。 7. 漢方医学の実際について、診察手技や薬物、鍼灸診療を体験的に学び、臨床実習に活かせる。</p>	
テキスト	『はじめての漢方診療 ノート』 医学書院
参考書	『はじめての漢方診療 十五話』 医学書院 『学生のための漢方医学テキスト』 日本東洋医学会 『漢方210処方 生薬解説』じほう 『経絡・ツボの教科書』 新星出版社 『鍼灸治療の科学的根拠』 医道の日本
評価方法	筆記試験、実習の出席は必須
その他(メッセージ等)	漢方医学の具体的な運用に関する主な基本事項や、現代医学における漢方医学の位置づけを知り、医療人としての漢方医学に対する常識と臨床の基礎を身に付けていただきたい。

授業計画／担当教員等	
1回目	・7月 2日(木)4時限／主要処方とその運用(1)六病位の適応方剤とその運用① 陽証(1)／三猪忠道
2回目	・7月 2日(木)5時限／主要処方とその運用(2)六病位の適応方剤とその運用② 陽証(2)／三猪忠道
3回目	・7月 2日(木)6時限／主要処方とその運用(3)六病位の適応方剤と運用③ 陰証／三猪忠道
4回目	・7月 9日(木)4時限／主要処方とその運用(4)気血水の異常からみた適応方剤と運用①／鈴木朋子
5回目	・7月 9日(木)5時限／主要処方とその運用(5)気血水の異常からみた適応方剤と運用②／鈴木朋子
6回目	・7月 9日(木)6時限／鍼灸の効果について(証とは何か)／鈴木雅雄
7回目	・7月16日(木)4時限／鍼灸の効果について(証に基づく治療法①)／鈴木雅雄
8回目	・7月16日(木)5時限／鍼灸の効果について(証に基づく治療法②)／鈴木雅雄
9回目	・7月16日(木)6時限／現代科学的にみた漢方薬の薬理作用／石毛 敦
10回目	・7月23日(木)4時限／実習※(湯液診療の診察実技／三猪忠道、鈴木朋子、伊関千書、小宮ひろみ)
11回目	・7月23日(木)5時限／実習※(鍼灸診療の実技／鈴木雅雄、古田大河、中沢良平、太田友理香、関根美智)
12回目	・7月23日(木)6時限／実習※(生薬の選品と調剤、製剤／佐橋佳郎、栃本恭輔、西谷真理) ※10-12回目は学生を3班に分け、3分野の実習を1コマずつ交代で行う

科目・コース(ユニット)名	腫瘍内科学【医学4】						
(英語名称)	Medical Oncology						
担当責任者	佐治 重衡						
開講年次	4年	開講学期	2期	必修／選択	必修	授業形態	講義

概要／方針等

日本の死因の第1位はがんであり、その多くの患者さんにがん薬物療法が必要となる。これまでがん薬物療法は各臓器別に行われてきたが、がん薬物療法を臓器横断的にも行うことができる腫瘍内科の重要性が認識されている。がんの病態を理解し、薬物療法を中心としたさまざまな対処方法を学ぶことを目標とする。

学習目標

一般目標 がんの薬物療法について理解する。

行動目標

- 1.がん薬物療法に使用される薬剤の作用機序を理解する。
- 2.治療効果判定方法(RECIST)を理解し説明できる。
- 3.薬剤の有害事象とその評価方法(CTCAE)、対処法を理解する。
- 4.5大癌(肺がん・胃がん・大腸がん・乳がん・子宮がん)の治療戦略について説明できる。
- 5.がん患者の身体的・社会的苦痛に共感する。

テキスト

特に指定しない。

参考書

新臨床腫瘍学 南江堂
がん診療レジデントマニュアル 医学書院

評価方法

出席日数、筆記試験などにより総合的に評価する。

その他(メッセージ等)

授業計画／担当教員等

平成27年度

- 9月10日(木)VI 総論 がん薬物療法 担当:佐治重衡
 9月17日(木)VI 総論 治療効果判定と有害事象 担当:佐治重衡
 9月24日(木)VI 各論 5大癌の治療法① 担当:未定
 10月1日(木)VI 各論 5大癌の治療法② 担当:未定
 10月8日(木)VI 総論 がん患者さんからのメッセージ 担当:佐治重衡、鈴木牧子

担当教員

佐治重衡 教授 腫瘍内科学講座
 木村礼子 助手 腫瘍内科学講座
 鈴木牧子「ひいらぎの会」代表世話人